

平成 28 年度事業報告書

社会福祉法人 熊野市社会福祉協議会

平成 28 年度を終えて

昨年より、欧米、アジア諸国で様々な大きな動きがあり、今現在も世界中が固唾をのんでそれらの動向を見守っています。また、昨年は日本においても、政治不信を招く問題が露呈するなど、国民一人ひとりが国内外のこれらの事柄について、身近な問題として社会情勢を考えるようになってきたと思います。

福祉を取り巻く環境も良い状況とはいえ、相変わらずの財源不足と人材不足のダブルパンチが、全国の事業所の経営を圧迫し、職員の離職にとどまらず、経営基盤の劣化により、事業からの撤退を余儀なくされることも少なくありません。

そのような中にありながら熊野市社会福祉協議会においては、平成 27 年度の経営悪化による赤字決算に対して、平成 28 年度は健全な経営を行うべく、職員一同知恵を出し合い、法人と、住民のために尽力し、結果、予想を上回る黒字決算で年度を終えることができました。

とはいえ、収支差額の金額は、平成 27 年度の赤字を取り戻すためにはある程度の成果と捉えることはできても、来年度以降予想される介護保険法改正による更なる収入の減額や、将来への設備等への投資などを考えると、今後も気を緩めず、更なる経営努力が必要であることはいうまでもありません。また同時に、一社会福祉法人として更なる社会、地域への貢献に取り組み、住民の皆様から必要とされ、頼られる組織となれるよう、一層の努力が求められています。

従前より熊野市社会福祉協議会としては、経営、社会貢献に関して、職員の意識向上に努めてまいりましたが、とりわけここ数年、経営についての会議、検討に係長会議等で重ね、また、係内での職員への周知を行うことにより、職員一人ひとりが法人内外のこれらの事柄について、身近な問題として考えるようになりはじめたことも事実であり、苦しい中ではありますが明るい兆しと考えることができます。前年度からのこの動きを止めることなく、向上させ続け、本年も良い結果を残せるよう尽力します。

ここに前述と併せて、平成 28 年度の法人の事業活動の報告を行い、新たな年に向けての決意とします。

◇社会福祉事業

拠点区分

サービス区分	事業詳細区分	ページ	
法人本部			
法人運営	法人運営事業	1	
	退職金積立	6	
地域福祉活動推進	地域福祉活動推進事業	7	
	地区事業	13	
	福祉大会	16	
	フェスタ	17	
	敬老会	19	
	助成事業	21	
	相談事業	22	
	福祉委員研修等	23	
	障がい福祉推進	25	
	食事サービス事業	27	
	三世代交流事業	28	
	戦没者追悼式	29	
	ボランティアセンター運営事業	30	
	共同募金配分金事業	共同募金配分金事業	34
	資金貸付事業	生活福祉資金貸付事業	35
		助け合い金庫貸付事業	37
		高額療養費貸付事業	38
ふれあいセンター運営事業	ふれあいセンター運営事業	39	
基金運営	基金運営事業	40	
受託事業	福祉サービス利用援助	41	
	(日常生活自立支援事業)		
	食の自立支援事業	42	
	福祉バス運行事業	43	
	高齢者生活福祉センター管理事業	44	
	高齢者筋力向上トレーニング事業	45	
	障がい者就労支援事業	47	
生活支援体制整備事業	48		

拠点区分

サービス区分	事業詳細区分	ページ
<u>介護事業所（井戸）</u>		
居宅介護支援事業	居宅介護支援事業	53
訪問介護事業	訪問介護事業	54
通所介護事業	通所介護事業	55
訪問入浴介護事業	訪問入浴介護事業	57
地域活動支援センター事業	地域活動支援センター事業	58
特定相談支援事業	特定相談支援事業	59
<u>介護事業所（飛鳥）</u>		
居宅介護支援事業	居宅介護支援事業	60
訪問介護事業	訪問介護事業	61
通所介護事業	通所介護事業	62
<u>介護事業所（紀和）</u>		
居宅介護支援事業	居宅介護支援事業	63
訪問介護事業	訪問介護事業	64
通所介護事業	通所介護事業	65
<u>介護事業所（あゆみ）</u>		
生活介護事業所あゆみ事業所	生活介護事業所あゆみ事業所	66
◇収益事業		
<u>くまのふれあいセンター</u>		
ふれあいセンター賃貸事業	ふれあいセンター賃貸事業	39

拠点区分／サービス区分		法人拠点／法人運営
事業詳細区分		法人運営事業
財源区分		補助・受託（市・県等）・ 単独 （会費・共募・寄付金・その他）
事業概要	目的	組織体制の強化と健全な財政運営のため、役員会の運営や適正な財務及び労務管理を行うと共に、組織の活性化を図るため福利厚生事業や職員研修を充実させ、組織全体のPRに努める。
	内容	<p>①役員会等・・・正副会長会議、理事会、評議員会、監事監査、課長会議、課長係長会議、安全衛生委員会等</p> <p>②財務労務管理・・・予算、決算、労務管理業務及び各種研修会への参加等</p> <p>③福利厚生・・・各種助成の実施及び職員交流事業などの企画等</p> <p>④職員研修・・・外部研修及び内部研修の企画等</p> <p>⑤広報事業・・・福祉くまのの発行及びHP、フェイスブックなどの管理等</p> <p>⑥賛助会費・・・社協に賛同頂ける会員を募集し、会費を徴収。地域福祉事業に活用。</p>
実績内容	<p>①役員会等（主な協議内容のみ）</p> <p>【正副会長会議】 年12回</p> <p><u>第1回 4月14日（木）</u> 各管理者、障害者雇用、あゆみ事業所職員の処遇、安全管理特別指導指定解除、生活支援体制整備事業、ふれあいいきいきサロン事業審査、監査及び役員会他</p> <p><u>第2回 5月16日（月）</u> 職員の退職、地域福祉活動助成金の申請、監査及び役員会の内容、処遇改善一時金の支給他</p> <p><u>第3回 6月16日（木）</u> 夏季賞与の支給、新規職員の採用、職員の退職について</p> <p><u>第4回 7月14日（木）</u> 組織体制、賛助会費の募集、ストレスチェックの実施、ふれあいフェスタの開催、中型自動車免許取得の助成、アマチュア無線資格取得の助成他</p> <p><u>第5回 8月11日（木）</u> 高齢者慰問の実施、社会福祉法人制度改革、緊急連絡体制、アマチュア無線資格取得の計画、衛生管理者他</p> <p><u>第6回 9月8日（木）</u> 高齢者慰問及び敬老会、赤い羽根共同募金運動、社会福祉法人制度改革、継続雇用者、ひなた祭の開催他</p> <p><u>第7回 10月13日（木）</u> 社会福祉法人制度改革、インフルエンザ予防接種の助成、新しい総合事業他</p> <p><u>第8回 11月23日（木）</u> 冬季賞与の支給、役員会の内容、ふれあいいきいきサロン助成グループの追加、ふれあいミニフェスタ in 新鹿、赤い羽根共同募金「もちつき大会」の開催他</p>	

実績 内容	<p><u>第9回 12月 7日(木)</u> 障害者就業・生活支援センター事業受託、役員会上程議案、日本福祉財団車両助成 他</p>
	<p><u>第10回 1月12日(水)</u> 車両購入、新規職員募集、役員会開催、新年会開催、地区社協会長変更他</p>
	<p><u>第11回 2月 9日(木)</u> 補助金受託金内示、管理職手当一部変更、役員会上程議案、新規職員採用、職員体制について</p>
	<p><u>第12回 3月10日(金)</u> 新規職員の募集、ふれあいいきいきサロン審査結果、地域福祉活動助成、役員会上程議案他</p>
	<p>【理事会及び評議員会】 年3回</p>
	<p>第1回理事会・評議員会 5月24日(火) 議案第1号 平成27年度事業報告について 議案第2号 平成27年度収入支出決算報告について 議案第3号 評議員選任にかかる同意について(理事会のみ) 議案第4号 常務理事の指名について(理事会のみ)</p>
	<p>第2回理事会・評議員会 12月14日(水) 議案第1号 平成28年度収入支出第1次補正予算について 議案第2号 育児、介護休業等に関する規則の一部改正について 議案第3号 定款改正(案)について 議案第4号 評議員選任・解任委員会運営細則の制定について(理事会のみ) 議案第5号 評議員選任・解任委員会委員の選任について(理事会のみ) 議案第6号 役員等報酬及び費用弁償に関する規程の制定について 議案第7号 旅費規程の一部改正について 議案第8号 評議員選任規程の制定について 議案第9号 評議員候補者の推薦について(理事会のみ)</p>
	<p>第3回理事会・評議員会 3月22日(水) 議案第1号 平成28年度収入支出第2次補正予算(案)について 議案第2号 経理規程の一部改正について 議案第3号 給与規程の一部改正について 議案第4号 非常勤職員就業規則の一部改正について 議案第5号 定款細則(案)について 議案第6号 平成29年度事業計画(案)について 議案第7号 平成29年度収入支出予算(案)について 議案第8号 第三者委員の選任について(理事会のみ)</p>

実績 内容	<p>【監事監査】 年 1 回</p> <p>第 1 回 5 月 13 日 (金) 事業報告及び会計監査 / 監事 森本明・和田樹一郎</p>
	<p>【課長会議】 年 12 回</p> <p>協議テーマ (主な内容) 随時) 月間スケジュール、経営状況 臨時) 障がい者就業・生活支援センター受託、文書発信事務、退職とその補充、採用計画、中型免許取得助成、次年度人事、総合事業、年末年始行事、新規採用、他</p>
	<p>【課長係長会議】 年 12 回</p> <p>協議テーマ (主な内容) 係長指針の制定、ノー残業DAY、経費削減対策、苦情受付処理、永年勤続記念事業、介護事業所の事故、情報開示請求、健康診断及びストレスチェック、清掃活動、賛助会費、職員研修計画、熊野市における地域貢献事業、共同募金運動、ひなた祭、収支状況及び支出状況の把握、リスクマネジメント、振替休日及び代休処理、福利厚生事業、ふれあいフェスタ、ミニフェスタ、もちつき大会、サービス中における行方不明者への対応、法令遵守責任者等</p>
	<p>【安全衛生委員会】 年 12 回</p> <p>協議テーマ (主な内容) 交通安全、危険チェックリスト、推進員意見交換、腰痛予防、熱中症予防、健康診断、ストレスチェック、長時間労働、インフルエンザ予防、ノロウイルス予防、ヒヤリハット等</p>
	<p>②財務労務管理</p> <p>財務及び労務に関する研修会・説明会等へ参加</p>
	<p>6 月 8 日 (水) 雇用主説明会</p>
	<p>6 月 20 日 (月) 経営協研修会</p>
	<p>7 月 19 日 (火) 会計担当者集中講座、社会保険事務セミナー</p>
	<p>8 月 26 日 (金) 改正社会福祉法制度改革対応セミナー</p>
	<p>9 月 7 日 (水) 名南経営訪問</p>
<p>9 月 28 日 (水) 実践型リスクアセスメントセミナー</p>	
<p>9 月 29 日 (木) 税務研修会</p>	
<p>10 月 18 日 (火) 就職面接会</p>	
<p>10 月 21 日 (金) 育児・介護休業法改正説明会</p>	
<p>10 月 24 日 (月) ストレスチェック制度セミナー</p>	
<p>11 月 17 日 (木) 年末調整事務説明会</p>	
<p>12 月 8 日 (木) 改正社会福祉法対応セミナー</p>	
<p>12 月 13 日 (火) 社協トップセミナー</p>	
<p>1 月 26 日 (木) 管理者向け会計セミナー</p>	

実績内容	<p>2月21日(火) 退職共済制度説明会</p> <p>③福利厚生事業</p> <p>事業所担当制により各種事業を実施。</p> <p>4月15日(金) 歓送迎会 「鬼ヶ城センター」</p> <p>6月29日(水) ビーチボール大会「熊野市市営体育館」</p> <p>12月20日(火) エクササイズ「熊野市保健福祉センター」</p> <p>1月20日(金) 新年会「海ほたる」</p> <p>健康診断及びストレスチェックの実施</p> <p>ソウエルクラブ掛金の一部助成、インフルエンザ予防接種費用の一部助成</p> <p>永年勤続記念事業</p> <p>④職員研修</p> <p>外部研修への参加及び内部研修会を実施。</p> <p>6月 2日(木) 細菌性食中毒防止講習会</p> <p>6月13日(月) 防災訓練(紀和事業所)</p> <p>6月17日(金) 安全衛生管理研修会</p> <p>7月14日(木) 感染予防管理研修会</p> <p>7月20日(水) 安全衛生委員会視察研修会</p> <p>8月 5日(金) 安全運転管理者講習</p> <p>9月 1日(木) 市総合防災訓練</p> <p>10月11日(火) 救命講習会</p> <p>10月27日(木) 会計研修会</p> <p>10月31日(月) 防災訓練(井戸事業所)</p> <p>11月21日(月) 腰痛予防研修会</p> <p>9月 8日(木) 安全衛生教育講習</p> <p>9月29日(木) 交通安全講習会</p> <p>10月 4日(火) 産業安全衛生大会</p> <p>12月 1日(木) 事務処理研修会</p> <p>2月 7日(火) 人権講座</p> <p>2月27日(月) 情報発信研修会</p> <p>3月 6日(月) 市町社協新任職員研修</p> <p>⑤広報事業</p> <p>「福祉くまの」の発行 / 6回(5月、7月、9月、11月、1月、3月)</p> <p>行政広報に折込むことで全戸配布、ホームページ及びフェイスブック随時更新</p> <p>⑥賛助会費</p> <p>会員の強化を目的とし、新規会員 20 件に対し訪問依頼。継続会員についても各係長が中心なり、依頼する。</p> <p>賛助会員 116 件、団体会員 12 件、個人会員 102 件 合計 件 1,145,000 円</p>
------	--

事業評価	<p>会計処理、労務管理とも、事務担当者の知識及び経験が増えるにつれ、一人ひとりの事務処理能力が向上し、係としては安定感を増してきた1年であった。新会計移行後、はじめての決算処理についても、会計コンサルの指導もあり、スムーズに終わることができた。</p> <p>役員会、会議、研修会等についても、計画的に実行できたことについては一定の評価ができる。また、社会福祉法改正に伴う事務についても、特に大きな問題もなく、定款変更の処理を終えることができた。何かと忙しい1年であったが、とても充実した年であったように思う。</p>	
課題	<p>それぞれの業務に慣れつつある中、次のステップアップには至っておらず、多忙時期には残業処理が多くなってしまっている。平成28年度末で職員1名が退職した。事務処理に慣れつつあったので、非常に残念な思いがある一方、業務上、新たな職員がすぐに取り組めることが難しい部署でもあるので、大きな処理ミスを起こさないように慎重に取り組みを図る必要がある。</p>	
今後の方針	重点目標	<p>新たな職員を加え、一から総務課の体制を構築すべく、人材育成に努める。同時に、現在の取組については最低限、低下させないよう努力する。</p> <p>会計処理については、日頃の確認を重要視し、定期的な内部チェックを行い、その内容について専門家にも確認して頂くことで、決算処理時期の負担を大幅に少なくする。</p>
	課題解決策や新しい取組み	<p>平成29年度については、これまで以上に課内、係内の打ち合わせを充実させると共に、不安な処理、手続きについては、専門機関への確認を徹底し、処理の誤りを防ぐ。</p> <p>新たな取組として、職員確保のための施策づくりを行う。</p>

拠点区分／サービス区分		法人拠点／法人運営																						
事業詳細区分		退職金積立																						
財源区分		補助・受託（市・県等）・ 単独 （会費・共募・寄付金・ その他 ）																						
事業概要	目的	フルタイム職員の退職に伴う退職金支給のための積立。																						
	内容	三重県社会福祉事業職員共済会および独立行政法人福祉医療機構制度への加入によりフルタイム職員の退職金積立を行う。																						
実績内容	<p>三重県社会福祉事業職員共済会と独立行政法人福祉医療機構に加入</p> <p>■三重県社会福祉事業職員共済会</p> <p>28年度掛金額 3,979,706 円</p> <p>28年度資産計上額 1,989,853 円</p> <p>28年度資産取崩額 4,564,763 円</p> <p>■独立行政法人福祉医療機構</p> <p>28年度度掛金額 4,691,700 円（全額事業主負担）</p> <p>※資産計上不要</p> <p>■フルタイム職員数</p> <table border="1"> <tr> <td>28年度当初</td> <td>正規</td> <td>39名</td> <td>臨時</td> <td>10名</td> <td>合計</td> <td>49名</td> </tr> <tr> <td>28年度中途採用</td> <td>正規</td> <td>0名</td> <td>臨時</td> <td>1名</td> <td>合計</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>28年度退職者</td> <td>正規</td> <td>5名</td> <td>臨時</td> <td>0名</td> <td>合計</td> <td>5名</td> </tr> </table>			28年度当初	正規	39名	臨時	10名	合計	49名	28年度中途採用	正規	0名	臨時	1名	合計	1名	28年度退職者	正規	5名	臨時	0名	合計	5名
28年度当初	正規	39名	臨時	10名	合計	49名																		
28年度中途採用	正規	0名	臨時	1名	合計	1名																		
28年度退職者	正規	5名	臨時	0名	合計	5名																		
事業評価	退職後の経済面での支援となることで、定年まで安心して働くことができる。																							
課題	継続して掛け続けられるよう、安定的な事業収入をうみだしていく必要がある。																							
課題解決に向けての今後の方針	職員一人ひとりが安心して定年退職を迎えられるように、組織が一丸となりその組織力を十分に発揮しながら安定した収益を上げられるよう努力する。																							

拠点区分／サービス区分		法人本部／地域福祉活動推進
事業詳細区分		地域福祉活動推進事業
財源区分		補助・受託（市・県等）・単独（会費・共募・寄付金・その他）
事業概要	目的	<p>■福祉活動専門員の配置 地域住民にとって共通する生活課題、福祉課題に対して地域社会自らが組織的に取組み、解決に結び付けていく過程を支援する。</p> <p>■子育て支援 子育てに関わる団体と協働での事業や、地域住民に対して子育てへの関心を高める働きかけを行う。</p> <p>■社協なんでも講座 さまざまな講座を通じて、障がいや高齢福祉への関心と理解を深めるとともに、次世代の担い手の発掘と育成を行なう。</p> <p>■福祉機器貸出事業 在宅生活における介護者及び要介護者双方の身体的負担軽減を図る。</p> <p>■リサイクル登録制度 不要になった介護用品や乳幼児用品の再利用と、住民同士の助け合いや在宅介護の充実を図る。</p>
	内容	<p>■福祉活動専門員の配置 住民からのさまざまな相談や、住民懇談会など調査活動によって、地域の福祉課題を把握し、課題解決に向けての広報や組織活動、ボランティア活動など、住民の主体的な福祉活動の支援、新たな福祉サービスの企画・実施と評価などを行なうことで「福祉のまちづくり」を推進する。</p> <p>■子育て支援 市内の子育てに関する事業や支援を行っている団体の実態調査をおこない、必要とされる事業を展開する。</p> <p>■なんでも講座 外部講師も取り入れながら、介護、障がい者疑似、高齢者疑似体験、その他パソコン、講演等、希望に応じた形で幅広い内容の講座を開催する。</p> <p>■福祉機器貸出事業 ベッドや車椅子などの福祉機器の貸出をする。（1ヶ月以内無料、貸出期間と物品、運搬などに応じた料金設定あり。）</p> <p>■リサイクル登録制度 介護用品、乳幼児用品が不要になった方とそれらが必要な方との仲介。</p>

実績内容	<p>■地区社会福祉協議会連絡会</p> <p>社会福祉法への抵触を避けるため、各地区とも従来の「熊野市社協〇〇支部」という名称を「〇〇地区社協」と変更いただき、会議名称も支部長会議から地区社協連絡会と改めた。</p> <p>また市全体で地域福祉を推進していく観点から、年2回は特別連絡会として行政機関（熊野市福祉事務所、熊野市健康・長寿課）及び熊野市民生委員児童委員協議会を加えた形での会議を開催。</p> <p>第1回地区社協連絡会（特別連絡会） ※行政・民児協出席 日時 5月13日（金）9:30～11:30 内容 職員体制及び事務分掌、事業計画、社協ふれあいフェスタ 等</p> <p>第2回地区社協連絡会 日時 7月26日（火）9:30～10:30 内容 事業予定、敬老事業、熊野市生活支援体制整備事業、福祉委員研修会、戦没者追悼式 等</p> <p>第3回地区社協連絡会 日時 9月30日（金）9:30～10:30 内容 事業予定、敬老事業、社会福祉大会、ミニフェスタ、熊野市生活支援体制整備事業、社会福祉法人改革、乗合タクシー、共同募金 等</p> <p>第4回地区社協連絡会（特別連絡会） ※行政・民児協出席 日時 11月29日（火）9:30～11:00 内容 事業予定、敬老事業、社会福祉大会、ミニフェスタ、熊野市生活支援体制整備事業、高齢者及び障がい者にかかる相談機関について（地域包括・あしすと） 等</p> <p>第5回地区社協連絡会 日時 1月27日（金）15:00～16:00 内容 事業予定、地区社協連絡会設置要綱、地域福祉活動助成、いきいきサロン事業、福祉委員の推薦、熊野市生活支援体制整備事業研修会、第2回福祉委員研修会 等</p> <p>第6回地区社協連絡会 日時 3月24日（金）9:30～10:45 内容 事業予定、地区社協運営状況報告書、平成29年度地域福祉活動助成結果、平成29年度ふれあいいきいきサロン新規グループ、熊野市生活支援体制整備事業、食の自立支援事業における配達員について 等</p>
------	--

■地区社協関係（各地区社協総会等への出席）

①新鹿地区社協総会

日時 4月18日（火）19:00～20:00

内容 事業・決算報告、事業計画、予算 等

②両友地区社協総会

日時 5月17日（火）19:00～20:00

内容 事業・決算報告、予算、懇親会、敬老会、熊野市生活支援体制整備事業 等

③有馬地区社協第1回理事会

日時 6月13日（月）19:00～20:00

内容 敬老会、広報誌、熊野市生活支援体制整備事業 等

④遊木地区社協定期総会

日時 6月18日（土）14:00～15:00

内容 活動・決算報告、新年度役員及び任期、敬老会事業、出張旅費 等

⑤遊木地区社協定期総会

日時 1月14日（土）14:30～15:15

内容：活動・決算報告、役員改選 等

■地域福祉活動助成

地区社協活動助成配分 715,000円

地域福祉活動助成 遊木地区社会福祉協議会 85,000円

助成対象事業「遊木地区における地域活性化&福祉広報啓発活動事業」

■子育て支援

【子育て子育てマイスター養成講座/孫育て講座フォローアップ研修会への協力】

日時 3月1日（水）13:30～15:30

場所 熊野市文化交流センター

内容 ①研修会（講師：エンパワメントみえ 代表 志治優美 氏）

②情報交換会（グループワーク）

■なんでも講座

①5月16日（月）入鹿中学校（車いす・高齢者疑似体験）

②5月27日（金）五郷中学校（車いす・高齢者疑似・アイマスク体験）

③6月17日（金）新鹿地区社協（園芸療法教室）

④12月9日（金）有馬中学校（車いす・高齢者疑似体験）

⑤1月11日（水）神川町（パソコン教室①）

⑥1月16日（月）神上中学校（車いす・高齢者疑似・アイマスク体験）

⑦1月18日（水）神川町（パソコン教室②）

■福祉機器貸出事業

【短期利用】（1ヶ月以内） 車いす 1件

【長期利用】（1ヶ月以上）

車いす 37件 電動ベッド 12件 手動ベッド 2件 その他 6件

	<p>■リサイクル登録制度 利用件数 譲ります0件 譲ってください2件</p>
事業評価	<p>■福祉活動専門員の配置 生活支援体制整備事業に係る協議体等からも地域課題や地域資源等について把握することができた反面、解決に向けた具体的な方法論は出来上がっていない。また、既存資源の活用も十分に意識し、地域住民皆の安心した暮らしにつなげていくことが重要である。また、活動休止中である日進・波田須地区における活動においても、十分な協議が行えていない。各地区とも高齢化が著しい中、地域援助の在り方について再考していくことが必要と考える。</p> <p>■子育て支援 紀南児童相談所の担当者や保健師と定期的に連絡を取り情報交換することができたが具体的な事業の展開に至っていない。</p> <p>■なんでも講座 市内小中学校からの依頼をはじめ、地区社協や区からの依頼があり、より地域に密着した事業となった。</p> <p>■福祉機器貸出事業 貸出物品状況の整理を行ったことから、利用料の徴収や管理がスムーズに行えるようになった。</p> <p>■リサイクル登録制度 「譲ります」「譲ってください」ともに利用が低迷しており、機器のリサイクルによる住民互助や在宅介護の一助を担うといった当事業の目的が十分に達成されていない。</p>
課題	<p>■福祉活動専門員の配置 市全体の地域福祉力の底上げや各地区とのディスカッション等に重きを置く地区連絡会であるが、各地区との情報交流は希薄であり、事業等の報告が主となっている。地域ニーズに対して、俊敏に行動を起す姿勢が必要である。</p> <p>■子育て支援 子育てに関するニーズが具体的に把握できていない。</p> <p>■なんでも講座 福祉教育的な視点からも、単発で終了するのではなく、その後のフォローアップが必要。</p> <p>■福祉機器貸出事業 貸出機器の老朽化。 長期の利用により、タイミング次第では本当に必要な方への貸し出しができない状況である。</p>

	<p>■リサイクル登録制度</p> <p>利用実績の低迷。登録情報については、「福祉くまの」への掲載のみで対応しているため、タイミング次第では、2 か月以上自宅に保管して待つ必要がある。その結果として、廃棄処分することとなることが多い。</p>
<p>今後の方針</p>	<p>重点目標</p> <p>■福祉活動専門員の配置 地区社協の再編に向けた始動及び新たな活動展開 地区社協との連携強化</p> <p>■子育て支援 子ども関係の取り組みを行っている団体等と連携し、子育てに関するニーズを把握する。</p> <p>■なんでも講座 車いす体験や高齢者疑似体験など、「できない事（負の側面）」に焦点を当ててしまいがちな企画では、企画段階から終了後に至るまでトータル的に関われるようにする。</p> <p>■福祉機器貸出事業 在庫状況の適正な管理と、貸出機器のメンテナンスを行う。 本当に必要な方が利用できるように要綱の改定も含め検討する。</p> <p>■リサイクル登録制度 需要と供給のマッチングのスムーズ化。</p>
<p>課題解決や新しい取組</p>	<p>■福祉活動専門員の配置</p> <p>①対象地区（日進、波田須）における、区等との協議を再開するとともに、組織再編に向けた支援（担い手のマッチング等）を開始する。また、生活支援体制整備事業におけるモデル事業とも抱き合せながら、地区における新たな活動（たまり場等）を展開していく。</p> <p>②地区社協連絡会を通じて、各地区が抱える地域課題解決に向けた具体的な協議を実施する（協議事項に設ける等）。また、行政機関との協働も視野に入れながら、必要な働きかけを行う。</p> <p>■子育て支援 子ども関係の取り組みを行っている団体から情報を収集するとともに、子育て支援事業の実施に向けて、職員の資質向上を図るために、子ども関係の研修会へ積極的に参加していく。 ゴミ拾いのボランティア等、親子揃って気軽に参加できる体験を企画し、親子関係のサポートを行うとともに、ニーズキャッチを行う。</p> <p>■なんでも講座 教育委員会を始め関係団体と連携し、より質の高い講座の提供を目指す。 学校の教諭には、福祉教育に関する資料を提供するなど講座終了後も積極的に連絡を取り、学校教育現場での福祉教育への理解促進を図る。</p>

		<p>■福祉機器貸出事業</p> <p>安心して利用いただけるよう貸出機器のメンテナンスを徹底する。</p> <p>貸出期間の変更や対象者の明確化、申込書の様式変更等を行い、より利用しやすい、管理しやすい制度へと改定する。</p> <p>■リサイクル登録制度</p> <p>登録情報を Facebook ページや、場合によっては地方紙への掲載依頼も含め積極的に発信し、ニーズを探し出していく。</p>
--	--	--

拠点区分／サービス区分		法人本部／地域福祉活動推進	
事業詳細区分		地区事業	
財源区分		補助・受託 (市・県等)・単独 (会費・共募・寄付金・その他)	
事業概要	目的	<p>■ふれあいいきいきサロン 閉じこもり防止や生きがいがづくりなどの助長と地域住民主体の意識の向上を図る。</p> <p>■おうた 地区での細やかなサービスの充実により、閉じこもり防止や生きがいがづくりなどの助長を図る。</p>	
	内容	<p>■ふれあいいきいきサロン 地域の方々が集まって過ごす憩いの場づくりを目的に活動しているグループ、又はこれから活動に取り組もうとするグループに助成、支援する。</p> <p>■おうた 「おもしろい・うまい・たのしい」をモットーに、職員が地域に出向いた形で実施する小地域ミニデイサービス。住民が公民館に集まり、昼食をはさんでレクリエーションや、談話などでふれあい、楽しいひと時を過ごしていただく。保健師と一緒に外向く地区では健康相談や健康チェックも行い心身ともに健康の増進を図る。</p>	
実績内容	■ふれあいいきいきサロン		
	グループ名	備考	グループ名
	磯崎手芸クラブ (磯崎)		土曜会 (遊木)
	小阪つくしクラブ (小阪)		なかよし会 (磯崎)
	遊木さわやか会 (遊木)		メリーさんちでしよう会 (久生屋)
	なぎの木 (紀和)	休止	すこやかフレンド飛鳥 (小阪)
	木本ふれあい会 (木本)		遊木いきがい健康づくり (遊木)
	五郷ふれあいいきいきサロン (五郷)	休止	金曜体操 (有馬)
	チームべっぴん (新鹿)		甫母元気の会
	釜丁あつまろ会 (有馬)		神川サロン親和館
	久生屋健康いきがいクラブ (久生屋)		
<p>初期準備金： 4,295 円</p> <p>活動助成： 562,295 円 (H29.3.31 現在)</p>			

実績内容	■おうた 年間延べ利用者数 656人（平成29年3月末現在）		
	月	延べ人数	備考
	4	38	小森6、大泊14、上川3、長尾・赤木15
	5	79	小森7、育生27、波田須10、久生屋24、平谷11
	6	38	小森7、大泊13、上川3、長尾・赤木15
	7	68	小森6、育生27、波田須8、久生屋16、平谷11
	8	32	小森5、大泊13、上川3、長尾・赤木11
	9	78	小森4、育生29、波田須8、久生屋25、平谷12
	10	38	小森4、大泊11、上川3、長尾・赤木7、甫母13
	11	71	小森4、育生30、波田須12、久生屋21、平谷4
	12	39	小森4、大泊10、長尾・赤木12、甫母13
	1	69	小森5、育生18、波田須6、久生屋28、平谷12
	2	40	小森5、大泊10、長尾・赤木11、甫母14
	3	66	小森4、育生20、波田須10、久生屋23、平谷9
事業評価	■ふれあいいいきサロン 新規3グループが加入となった反面、既存の3グループが活動を休止中。内、2グループにおいては、高齢化に伴う心身機能の減退等による参加者不足等が主な要因である。 実施状況においては、各グループとも概ね月2回以上の活動がみられており、当事業における助成が活動継続の重要な後押しになっていると考えている。		
	■おうた ロコミで事業を知り新しく参加される利用者もいるなか、新たな地区（甫母）での開催により利用者数の増加につながるかと思ったが、他地区の高齢化の進行により、昨年度並みの利用者数となった。紀和町上川地区に関しては利用者の人数が1名となり現在休止中であり、再開に向けての働きかけを行う必要がある。 地区によっては、この事業をきっかけに月1回集まる場を設け、井戸端会議を行い始めたところも出てきており住民主体の意識向上につながられた。		
課題	■ふれあいいいきサロン 既存グループが継続され、安定した活動が維持されること。 グループ活動が派生し、新たな地域互助や地域資源に結び付けていくこと。		
	■おうた 利用者に対する継続した参加の促進 事業内容の周知		

<p>今後の方針</p>	<p>重点目標</p>	<p>■ふれあいいきいきサロン 既存グループの継続及び活動維持</p> <p>■おうた 利用者の継続した参加と事業内容の充実。</p>
	<p>課題解決策や新しい取組み</p>	<p>■ふれあいいきいきサロン 各グループ活動の視察や実態把握等、直接的・間接的双方の関わりを増加する。また、それらで得られた情報等に基づき、必要とされる支援を行う。</p> <p>■おうた 案内チラシに脳トレ問題などを取り入れ、答え合わせは事業開催場所にて行うなど、開催場所へ足を運んでいただけるような働きかけを行う。 シナプソロジーは好評であり継続して行うとともに、レク内容にも筋トレの効果を取り入れた内容のものを検討する。 また、事業周知の為、年2回程度おうたチラシを各地区全戸配布する。</p>

拠点区分／サービス区分		法人本部／地域福祉活動推進
事業詳細区分		福祉大会
財源区分		補助・受託（市・県等）・単独（会費・共募・寄付金・その他）
事業概要	目的	<p>団体や地域における福祉活動の発展に寄与された方々を顕彰するとともに、今後ますますの活躍を誓いあう場として第1部で式典を開催する。</p> <p>第2部では、福祉に関する講演会（社会福祉大会）や芸能を披露する芸能大会（老人福祉大会）を行なう。</p>
	内容	<p>■社会福祉大会</p> <p>福祉関係者が一堂に会し、住民参加の福祉のまちづくりの為に努力することを誓い合い、併せて社会福祉の発展に功績のあった方々に感謝の意を表する為、式典を開催し、第2部においては、記念講演を開催する。</p> <p>※老人福祉大会と毎年交互開催</p>
実績内容	<p>日時 12月6日（火）13:30～16:00</p> <p>会場 熊野市民会館 ホール</p> <p>参加者数 約450名</p> <p>内容 第1部 式典 熊野市社会福祉協議会会長表彰19名</p> <p>第2部 記念講演『「安心して生きられる」子どもの権利を守るために～虐待・いじめ問題への対応～』</p> <p>講師 幸島 美智子氏（元警視庁警察官、少年犯罪予防委員会代表）</p>	
事業評価	<p>関係団体からは社協会長表彰の推薦のみで、感謝状の贈呈は無かった。</p> <p>記念講演の内容も参加者の感銘を得るなど好評をいただくことができた。</p>	
課題	<p>団体に所属している方々中心の式典となることから参加者数が減少している。</p>	
今後の方針	重点目標	<p>広く一般住民への参加を呼びかける。</p> <p>社会福祉分野で活躍されている方々を顕彰することで、今後の活動の励みとなるような式典としていく。</p>
	課題解決策や新しい取り組み	<p>団体に所属しない個人も顕彰できるように、各関係機関や団体・グループ等に大会の周知及び情報収集に努めるとともに、表彰規定の改定も含め検討する。</p> <p>一般住民にも参加して貰うために、チラシやポスター等を作成し、配布・掲示していく。</p>

拠点区分／サービス区分		法人本部／地域福祉活動推進
事業詳細区分		フェスタ
財源区分		補助・受託(市・県等)・単独(会費・共募・寄付金・その他)
事業概要	目的	福祉に対する住民の関心や理解促進、関係団体等との連携強化等、地域の福祉力向上を図る。
	内容	<p>■社協ふれあいフェスタ</p> <p>実行委員会に開催テーマを立案。設定テーマに沿った社会福祉協議会の事業啓発や福祉団体等のPRを通じながら、スタッフ・参加者共に地域福祉について再考する。</p> <p>■社協ふれあいミニフェスタ</p> <p>社協ふれあいフェスタの地域版として開催。地区社協との共催により、深い地域交流を図るとともに、円滑な地域福祉実践活動へつなげる。また、地区社協活動に対する住民理解を得ることも大きな目的となる。</p>
実績内容	<p>■第11回社協ふれあいフェスタ</p> <p>日時 7月17(日) 10:00～13:00</p> <p>会場 熊野市保健福祉センター</p> <p>来場者 約1,000名</p> <p>■第10回社協ふれあいミニフェスタ in 新鹿</p> <p>日時 11月27日(日) 10:30～13:30</p> <p>会場 新鹿公民館</p> <p>来場者 約400名</p>	
事業評価	<p>■社協ふれあいフェスタ</p> <p>子どもや親子連れの集客をイメージし、夏休み前である上記日程にて開催。企画も入念に練りながら、結果、多数の子どもの参加を得ることができた。将来の地域福祉を担う者と考えた時、これらの企画一つ一つが個々の福祉に対する「信念」へとつながれば、正に幸いである。ただ、7月中旬の気候は想像以上に体力を消耗するものであり、熱中症等を危惧して日程を従来の6月に戻すことを提案する関係者が少なくなかったことも事実である。</p> <p>■社協ふれあいミニフェスタ</p> <p>市社協・地区社協・自治会・老人クラブ・婦人会・青年団等からなる実行委員会を立ち上げ、開催までに3回の全体協議、以外においても、主力メンバーを中心に数回に渡る協議を行い本番当日を迎えた。これらの協議等を通じ、地区役員や各団体等との交流・連携が図れたことは、地域福祉活動全体においても大きかった。</p> <p>当日はあいにくの雨模様であったものの、多数の来場者が会場を賑わすこととなった。</p>	

<p>課題</p>	<p>■社協ふれあいフェスタ 内容的にマンネリ化が否めない面もあり、企画を刷新できるかが課題として挙げられる。結果的に、地域福祉の理解にもつながるのであろう。</p> <p>■社協ふれあいミニフェスタ 共催であることの認識が薄い（どちらかで主導権を握る企画方法に陥りやすい）</p>	
<p>今後の方針</p>	<p>重点目標</p>	<p>■社協ふれあいフェスタ 子どもへの福祉教育にも重点を置く。</p> <p>■社協ふれあいミニフェスタ 地域間交流及び市社協と地区社協はじめ地域との連携強化</p>
	<p>課題解決策や新しい取り組み</p>	<p>■社協ふれあいフェスタ 福祉そのものを幅広いものと再認識し、通常時より支援対象者を限定しない意識づけを行う。ミーティング等の開催等。</p> <p>■社協ふれあいミニフェスタ このイベントに限らず、地区へは様々な事業への参加や協力を行っていく。</p>

拠点区分／サービス区分		法人本部／地域福祉活動推進
事業詳細区分		敬老会
財源区分		補助・受託（市・県等）・単独（会費・共募・寄付金・その他）
事業概要	目的	長寿祝いとともに、対象者への敬意を表することを目的とする。
	内容	<p>■敬老会 地区社協が中心となり、各地区で開催（紀和町においては地区老人クラブ）。福祉委員や民生委員、地区婦人会等の協力を得ながら運営される。また、満 88 歳高齢者に対しては、記念品を贈呈。</p> <p>■高齢者慰問事業 満 95 歳高齢者を対象に、社協会長、民児協会長などが対象者のご自宅または入所中施設（市内）を訪問し、長寿祝及び記念品の贈呈を行う。</p> <p>■満百歳記念事業 満百歳高齢者を対象に、社協会長、健康・長寿課長などが対象者のご自宅等を訪問し長寿祝及び記念品の贈呈を行う。</p>
実績内容	<p>■敬老会記念品 日程 9月18日（日）～11月23日（水） 会場 市内各地区 25 か所（公民館等） 対象 満 88 歳の方 対象数 197 名 記念品 赤座布団または座椅子（赤座布団 28 名、座椅子 169 名）</p> <p>■高齢者慰問事業 期日 9月19日（月） 対象 市内に住所を有する満 95 歳の方（平成 28 年 12 月 31 日基準日） 対象数 51 名（内、訪問 31 名） ※訪問以外の対象者へは、後日、記念品のみ贈呈（担当職員より） 記念品 タオルセット</p> <p>■満百歳記念事業 期日 基本的には対象者の誕生日（健康・長寿課より連絡） 対象 市内に住所を有する満百歳の方 対象数 10 名 記念品 レインボー商品券</p>	

事業評価	<p>■敬老会</p> <p>満 88 歳記念品については、「赤座布団または座椅子」の選択制とした。これは、実用性のある品を希望する地区からの声を反映したもので、結果的に座椅子希望が圧倒数を占めた。</p> <p>敬老会については、各地区で特色が感じられるものとなっているが、余興プログラムに苦慮されている様子もうかがえ、依頼により職員派遣で協力させていただいた地区もあり。</p> <p>■高齢者慰問事業</p> <p>敬老会のように自らが出向いて祝いを受けるものと、当事業のように自宅等で迎えられるものとは対象者が感じる特別感が異なる。訪問先の皆さんに大変喜んで頂けた。</p> <p>■満百歳記念事業</p> <p>対象者の生活歴等の事前把握により、家族等も和やかな雰囲気ですらうことができている。</p>
課題	<p>■敬老会</p> <p>多くの地区で補助対象者（77 歳以上）の出席率が 50%を割っている状況を鑑みると、それに向けた対応も必要である。</p> <p>■高齢者慰問事業</p> <p>社協単独事業となった今、民児協会長への依頼の必要性について検討したい。</p> <p>■満百歳記念事業</p> <p>生活歴等の聞き取りについて、社協は事前に行い、健康・長寿課は当日おこなっているのが現状である。互いの情報共有が十分に必要である。</p>
今後の方針	<p>重点目標</p> <p>■敬老会</p> <p>企画運営等、地区の実情に応じて随時、連携・協力を図っていく。</p> <p>■高齢者慰問事業</p> <p>本人や本人を取り巻く人たちが喜ぶ事業となるよう継続させていく。</p> <p>■満百歳記念事業</p> <p>本人や本人を取り巻く人たちが喜ぶ事業となるよう継続させていく。</p> <p>課題解決策や新しい取り組み</p> <p>■敬老会</p> <p>地区連絡会等を通じ、地区の実情を探りながら、企画運営等に対する協力を行う。</p> <p>■高齢者慰問事業</p> <p>可能な範囲において、本人の生活歴等の把握を行う。</p> <p>馴染みのよい記念事業として事業名称を変更する。</p> <p>■満百歳記念事業</p> <p>本人や家族の意向確認の上、訪問の際には近隣にも周知する。</p>

拠点区分／サービス区分		法人拠点／地域福祉活動推進／助成事業
事業詳細区分		助成事業
財源区分		補助・受託（市・県等）・単独（会費・共募・寄付金・その他）
事業概要	目的	福祉団体及び地区社協へ金銭的支援による団体の運営強化を図る。
	内容	母子寡婦福祉会、遺族会、保護司会等への助成。
実績内容	■団体助成 母子寡婦福祉会 290,000 円 遺族会 150,000 円 保護司会 340,000 円 身体障がい者（児）福祉連合会 530,000 円 紀南視覚障害者福祉協会 20,000 円 地区社協 800,000 円	
事業評価	■団体助成 市からの補助金をそのまま団体へ助成金として支出している。なお、地区社協への助成金は共同募金配分金を活用。	
課題	■団体助成 特になし	
今後の方針	重点目標	■団体助成 特になし
	課題解決策や新しい取り組み	■団体助成 特になし

拠点区分／サービス区分		法人本部 / 地域福祉活動推進
事業詳細区分		相談事業
財源区分		補助・受託 (市・県等)・単独 (会費・共募・寄付金・その他)
事業概要	目的	弁護士による法的な相談を受け付け、不安解消と安心した生活を過ごせるよう、その問題解決を図る。
	内容	弁護士による法律及びその他の相談。
実績内容	<p>■無料法律相談</p> <p>相談件数 38件</p> <p>周知方法 チラシ配布、広報誌掲載</p>	
事業評価	<p>■無料法律相談</p> <p>チラシや広報誌へ相談内容を記載したことでのどのような内容が相談可能かという問い合わせがなくなり、相談件数も昨年度より増加した。</p> <p>巡回相談のニーズがなく、今年度は見送りとなったが弁護士より巡回相談の実施については快諾をいただいているため、ニーズがあり次第実施できる体制は整っている。</p>	
課題	<p>■無料法律相談</p> <p>相談件数は増えてきているものの、法律相談時間（13時～15時）の2時間のうち1時間以内にすべての相談が終了しているため、より効果的に時間を使う必要がある。</p> <p>相談時間の10分では話しきれない相談者がいる。</p>	
今後の方針	重点目標	<p>■無料法律相談</p> <p>相談支援の資源のひとつとして、住民の方々に制度の周知を図り利用増へつなげ、住民の不安解消の一助として行く。</p>
	課題解決策や新しい取組み	<p>■無料法律相談</p> <p>毎回の利用状況を勘案しながら、時間の都合上、相談しきれない方を減らすために一人あたりの相談時間を10分から15分へ変更する。</p>

拠点区分／サービス区分		法人本部／地域福祉活動推進
事業詳細区分		福祉委員研修等
財源区分		補助・受託（市・県等）・単独（会費・共募・寄付金・その他）
事業概要	目的	地区からの推薦に基づき、会長が委嘱する福祉委員を中心に社会福祉協議会関係者の知識及び意識の向上を図る。
	内容	地区社協役員および福祉委員が、地域の中で一番身近な存在として、充実した活動を行なえるよう、基礎的な知識と支援方法を身につけるための研修会や懇談会を開催する。
実績内容	<p>■第1回福祉委員研修会</p> <p>日時 7月30日（土）14:00～16:00</p> <p>会場 熊野市文化交流センター 多目的ルーム</p> <p>内容 講演及び演習「住民主体で行う“支えあい”活動の役割」</p> <p>講師 大井智香子氏（中部学院大学短期大学部社会福祉学科准教授）</p> <p>対象 福祉委員、地区社協役員、民生委員</p> <p>参加者 79名</p> <p>■地区社協会長研修会</p> <p>日時 1月27日（金）16:00～17:00</p> <p>場所 熊野市保健福祉センター 第1会議室</p> <p>内容 講演「新しい総合事業のサービス類型」</p> <p>講師 地域福祉課地域福祉係長 大和田祐輔</p> <p>対象 地区社協役員等</p> <p>参加者 18名</p> <p>■第2回福祉委員研修会</p> <p>日時 2月25日（土）13:00～15:00</p> <p>会場 熊野市保健福祉センター 多目的ホール</p> <p>内容 講演「大人の自閉症・発達障害」</p> <p>講師 堀口佳子氏（三重県自閉症・発達障害支援センターれんげ）</p> <p>対象 福祉委員</p> <p>参加者 38名</p>	

事業評価	<p>■第1回福祉委員研修会</p> <p>過疎高齢化が進む現状において、若手を主とする新たな福祉の担い手創出の期待は薄い。その中では地域の互助が必要であり、今講義においてもそれらが多少なりとも理解が得られたのではないかと考えている。参加者数からも、地域で関心の高いテーマである。</p> <p>■地区社協会長研修会</p> <p>27年度介護保険法改正による地域支援事業の再編に伴い、介護サービスの在り方も変化している。総合事業の詳細まで理解を得ることは難しいが、今回の改正のポイントは抑えて頂けたと考えている。</p> <p>■第2回福祉委員研修会</p> <p>近年の地域福祉活動実践においても、引きこもりをはじめとする何らかの障害特性が感じられるケースも増加している。その中で、当研修テーマは福祉委員にとっても非常に関心の高いテーマであったようで、参加者からも好評価を得た。直接支援に及ばないとしても、障害特性等の理解を促進することは、障害者支援等にとって重要であると考えている。</p>
課題	<p>■福祉委員研修会</p> <p>福祉委員単独での研修では参加者は少ない。</p> <p>■地区社協会長研修会</p> <p>参加者の増加とともに、地域の福祉活動に即した内容の検討も必要。</p>
今後の方針	<p>重点目標</p> <p>■福祉委員研修会</p> <p>地域が抱える諸課題に着目した研修を実施していく。</p> <p>■地区社協会長研修会</p> <p>地域のために“知りたい”と考える内容での研修を実施していく。</p>
	<p>課題解決策や新しい取組み</p> <p>■福祉委員研修会</p> <p>専門的な内容のみならず柔軟にテーマを検討するとともに、地区社協会長等とも情報共有しながら、福祉委員の研鑽につながる研修を実施する。</p> <p>■地区会長研修</p> <p>地区社協連絡会等を通じ、地区社協会長研修の在り方等についても再協議をおこなっていく。</p>

拠点区分／サービス区分		法人本部／地域福祉活動推進
事業詳細区分		障がい福祉推進
財源区分		補助・受託（市・県等）・単独（会費・共募・寄付金・その他）
事業概要	目的	<p>■紀南地域知的障害児（者）生活交流会 熊野市、御浜町、紀宝町の3市町で同じ知的障がい者同士の交流と社会参加の機会づくりをする。</p> <p>■ふらった～ 市内障がい者の社会参加の一助となるよう側面的に支援する。</p>
	内容	<p>■紀南地域知的障害児（者）生活交流会 年4回、各市町社協が持ち回りで事務局を担当し、各市町社協と障害者総合相談支援センターあしすととが合同で運営委員会を開催し、委員会において事業の反省や次回の事業内容を検討する。</p> <p>■ふらった～ 当事者の意見を基に可能な限り自主的活動を支援し、年度初めに年間計画を立て自分で出来る事を作っていく。</p>
実績内容	<p>■紀南地域知的障害児（者）生活交流会</p> <p>①5月12日（木）「ミニ運動会」／熊野市保健福祉センター ②7月7日（木）「そば打ち体験」／御浜町福祉健康センター ③10月13日（木）「お菓子作り」／熊野市保健福祉センター ④1月12日（火）「新春 書き初め」／紀宝町福祉センター</p> <p>■ふらった～</p> <p>① 4月21日（木）事業報告、年間活動予定の決定／熊野市保健福祉センター ② 8月25日（木）ふれあいバーベキュー（ちびボラ共同企画）／ 紀和町雨天ゲートボール場 ③11月17日（木）電車でGO／尾鷲（夢古道おわせ、種まき権兵衛の里） ④ 2月23日（木）～24日（金）視察研修旅行／鈴鹿市（鈴鹿サーキット、就労継続支援B型事業所すずわ）</p>	
事業評価	<p>■紀南地域知的障害児（者）生活交流会 体験や調理実習等の内容を主として実施したため、他市町の参加者との交流を促すことができた。また、ボランティアを講師に招いた企画もあり、地域との交流も図ることができた。</p> <p>■ふらった～ 年度途中より新規メンバーが2名加わり、助け合いの姿が多くみられ、また新規メンバーに触発され積極性も増してきており、社会参加に必要な要素を徐々に身に付けている。</p>	

課題	<p>■紀南地域知的障害児（者）生活交流会 他の事業との位置づけの見直し。 参加者が増加しつつあることから、送迎ルートの見直しが必要である。</p> <p>■ふらった～ 社会参加に向けたプログラムへ変更するための見直しが必要。</p>
今後の方針	<p>重点目標</p> <p>■紀南地域知的障害児（者）生活交流会 参加者（保護者）に負担の少ない参加方法の検討。</p> <p>■ふらった～ 社会参加に向けたプログラムとなるよう当事者の意見を尊重しつつ、自立に必要な可能性を引き出す支援をする。</p>
課題解決策や新しい取り組み	<p>■紀南地域知的障害児（者）生活交流会 自宅前までの送迎に限らず、ある場所での待ち合わせなど、安全に配慮しながら多様な参加方法を取り入れる。</p> <p>■ふらった～ グループ行動の中で各々が役割を持ち、責任を感じてもらえるようなプログラムを組み込む。また、地域の事業所などと協働することで地域との関わりをもっていく。</p>

拠点区分／サービス区分		法人本部／地域福祉活動推進
事業詳細区分		食事サービス事業
財源区分		補助・受託（市・県等）・単独（会費・共募・寄付金・その他）
事業概要	目的	給食を通して、一人暮らし高齢者の孤独感の解消と見守り、地域での支えあいの慣習化を図る。
	内容	概ね月に一度、ボランティアグループや地区社協が弁当を調理し、一人暮らし高齢者等の自宅に配達する。※利用者自己負担：なし
実績内容	実施時期 通年（食中毒が心配される時期と敬老会実施月は休みの場合あり） 実施場所 各地区（一部活動を休止している地区あり） 配達数 延べ6,582食 ボランティア数 延べ1,847人（男：433名、女：1,414名）	
事業評価	ボランティアグループに渡す資材を充実させ、金銭的な負担の軽減を図った。	
課題	対象となる高齢者の増加、担い手の高齢化、減少等の理由により、活動の継続が困難な地区が増加している。	
今後の方針	重点目標	ボランティア活動の継続を図るため、活動の状況把握に努め負担軽減策を検討・実施する。
	課題解決策や新しい取り組み	活動中のボランティアグループや地区社協を対象にアンケート調査を実施するとともに活動の様子を見学し、ボランティアの負担軽減策につなげる。

拠点区分／サービス区分		法人本部／地域福祉活動推進
事業詳細区分		三世代交流事業
財源区分		補助・受託 (市・県等)・単独 (会費・共募・寄付金・その他)
事業概要	目的	<p>■三世代交流ニュースポーツ大会</p> <p>子どもから高齢者まで幅広い年代の交流を図り、地域福祉向上のきっかけとする。</p>
	内容	<p>■三世代交流ニュースポーツ大会</p> <p>子どもから高齢者まで誰でも気軽に行えるレクリエーションやゲームを行う。</p>
実績内容	<p>■三世代交流ニュースポーツ大会</p> <p>①ふれあいレクリエーション大会 in 育生 日時 6月26日(日) 10:00～ 場所 旧育生小学校 体育館 参加者 46名</p> <p>②ふれあいレクリエーション大会 in 両友 日時 11月12日(土) 10:00～ 場所 旧飛鳥小学校 体育館 参加者 50名</p> <p>③ふれあいレクリエーション大会 in 五郷 日時 3月19日(日) 10:00～ 場所 五郷小学校 講堂 参加者 29名</p>	
事業評価	<p>■三世代交流ニュースポーツ大会</p> <p>地区によって温度差はあるものの、実施した地区より、「また、お願いしたい」と頼まれるようなニーズのある事業である。また、取りまとめを地区社協にお願いすることで地域間の連携にもつながっている。</p>	
課題	<p>■三世代交流ニュースポーツ大会</p> <p>地区社協連絡会の際に立候補で開催地区を選定しているが、地区が偏りつつある。</p>	
今後の方針	重点目標	<p>■三世代交流ニュースポーツ大会</p> <p>近隣住民の交流希薄化の改善の一助として、当事業が地域住民同士の交流のきっかけ作りとなるようにする。</p>
	課題解決や新しい取組み	<p>■三世代交流ニュースポーツ大会</p> <p>満遍なく地区を周れるよう、1地区は地区社協連絡会において立候補を募り、他は過去の実施状況を見て直接的に地区へ依頼し、年間3回の「ふれレク」を開催する。若年層の集客を目的に、大会終了後に菓子ほりを実施する。</p>

拠点区分／サービス区分		法人本部／地域福祉活動推進
事業詳細区分		戦没者追悼式
財源区分		補助・受託（市・県等）・単独（会費・共募・寄付金・その他）
事業概要	目的	かつての戦争で犠牲になられた方々の追悼と、ご遺族をはじめ、関係者が一堂に会し、恒久平和を祈念する。
	内容	ご遺族をはじめ、関係者が一堂に会し、戦争で犠牲となられた方々を追悼するとともに平和を祈念することを目的とした式典を開催する。
実績内容	日時 9月6日（火）13:30～14:30 場所 熊野市民会館 ホール 参列者 遺族 197名（遺族会 187名、新世代の部 10名）、来賓 60名、主催 12名 取材新聞社 3社	
事業評価	遺族会としての意向もあり、遺族会新世代の部の式典への参加や市議会議員の献花等、恒久平和祈念の為の式典という性格が強くなってきている。	
課題	遺族会会員の高齢化と会員数減少に伴い出席者が減少傾向にある。	
今後の方針	重点目標	遺族会員の出席を主としながら、一般の住民、小中高校生等の学生にも広く参加を呼びかける。
	課題解決策や新しい取組み	<ul style="list-style-type: none"> 市内小中高校生の出席が得られるよう各教育委員会への働きかけを行う。 平和に関する作文や川柳を募集するなど、多くの住民が平和について考えることのできる式典となるように、遺族会と連携した取り組みを実践する。

拠点区分／サービス区分		法人本部／地域福祉活動推進
事業詳細区分		ボランティアセンター運営事業
財源区分		補助・受託(市・県等)・単独(会費・共募・寄付金・その他)
事業概要	目的	ボランティア活動の支援と企画、ボランティアを担う人材の発掘と育成を行う。
	内容	<p>現在活動中のボランティアグループ(個人)、または活動を始めたい方のボランティア活動がより安全で充実した活動となるように、ボランティア活動保険等への加入手続きや相談、ボランティアに関する情報・助成金情報の提供、ボランティアをしたい方、して欲しい方とのマッチング、地域ニーズの把握並びに必要なとされるボランティア活動の企画を行う。</p> <p>また、ボランティアに関する講座等を開催し、ボランティア意識の向上、活動への動機づけを図る。</p>
実績内容	<p>■ボランティアセンター事務</p> <p>ボランティアに関する相談・活動の場の斡旋、ボランティア活動保険加入手続き(1,640名〈34団体、個人7名〉加入)、ボランティア行事用保険加入手続き、ボランティアセンター登録証の発行、福祉くまの「ボランティアセンター情報誌 いな」の発行。</p> <p>■会議</p> <p>①平成28年度第1回市町社協ボランティア担当者連絡会議 6月8日(水) 三重県社会福祉会館</p> <p>②平成28年度地域福祉担当者会議兼第2回市町ボランティアセンター地域会議 9月13日(火) 御浜町福祉健康センター</p> <p>③平成28年度社協ボランティア・市民活動センター担当職員研究セミナー 12月13日(火)～14日(水) 全国社会福祉協議会</p> <p>④社協・NPO・中間支援組織合同勉強会(防災・災害支援) 1月30日(月) アスト津 みえ県民交流センター</p> <p>⑤平成28年度第2回市町社協ボランティア担当者連絡会議 2月27日(月) 三重県社会福祉会館</p> <p>■講座等</p> <p>【ボランティア養成講座「声のボランティア講座」】 講師：伊勢市 朗読奉仕会 会長 志賀智子 氏 会場：熊野市保健福祉センター 第1会議室</p> <p>①10月1日(土) 参加者：9名 ②10月15日(土) 参加者：7名 ③10月29日(土) 参加者：6名</p>	

【介護教室「介護教室～たべる、たのしみ～」】

講師：特別養護老人ホーム やまびこ荘 管理栄養士 原田新吾 氏

会場：熊野市保健福祉センター 調理実習室

6月12日（日）参加者：20名

【災害ボランティアコーディネーター養成講座】

①3月8日（水）熊野市保健福祉センター 第1会議室

テーマ：災害ボランティアセンターとは

～災害ボランティアコーディネーターとして身につけたい力～

講師：NPO 法人みえ防災市民会議 議長 山本康史 氏

参加者：8名

②3月14日（火）熊野市保健福祉センター 第1会議室

テーマ：熊野市における災害対策の現状と熊野市災害ボランティアセンターの運営について

講師：熊野市役所 防災対策推進課 職員／地域福祉課 職員

参加者：4名

■ちびっ子ボランティア（くまのちびっ子ボランティアグループ）

①7月2日（日）熊野市保健福祉センター 和室 参加者：8名

第11回社協ふれあいフェスタ事前会議、準備

②7月17日（日）熊野市保健福祉センター 参加者：8名

第11回社協ふれあいフェスタ 熊本地震に係る募金活動、熊野市老人クラブ
連合会模擬店の補助

③8月25日（木）紀和雨天ゲートボール場 参加者：9名

障がい者社会参加事業「ふらった～」参加者との交流企画

④12月10日（土）熊野市保健福祉センター 参加者：9名

赤い羽根共同募金「もちつき大会」への参加協力、募金活動

■ボランティアグループへの支援

◇お話しボランティアさえずり

(1) 4月6日（水）定例会 出席

(2) 7月17日（日）みえ傾聴ボランティア連合会総会 車両貸出

(3) 7月17日（日）第11回社協ふれあいフェスタへの出店

(4) 1月18日（金）定例会 出席

(5) その他

来年度のみえ傾聴ボランティア連合会総会の事務担当が紀南地区のため、総会の内容等の検討を行った。

◇園芸ボランティアグループくまの

- (1) 概ね毎月第2火曜日 13:00～15:00 休憩場所、活動資材の提供
- (2) 7月17日(日) 第11回社協ふれあいフェスタへの出店
- (3) 11月27日(日) 第10回社協ふれあいミニフェスタ in 新鹿への出店
- (4) 12月27日(火) お正月寄せ植え教室

◇そば打ちボランティアグループ

- (1) 概ね月1回、熊野市保健福祉センター調理実習室にて自主活動を実施。
- (2) 7月17日(日) 第11回社協ふれあいフェスタへの出店
- (3) 11月27日(日) 第10回社協ふれあいミニフェスタ in 新鹿への出店
- (4) 2月28日(火) 熊野市食生活改善推進協議会研修会 講師

■その他

- ①熊野市災害ボランティアセンター 設置・運営マニュアルの検討・作成
- ②熊本地震に係る赤い羽根共同募金(赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」・九州) 募金活動
 - (1) 7月17日(日) 熊野市保健福祉センター
第11回社協ふれあいフェスタにて、くまのちびっ子ボランティアグループが募金活動を実施
 - (2) 随時 熊野市保健福祉センター
保健福祉センター内に募金箱を設置
- ③三重ボランティア基金 募金活動/周知活動
募金活動(随時) 熊野市保健福祉センター
保健福祉センター内に募金箱を設置
周知活動
ボランティアセンター掲示板へのポスター貼付・ポケットティッシュ・風船の設置、デイサービス等に対しボランティア基金風船を提供。
- ④三重ボランティア基金 助成物品
ジュースディスペンサー 一式
- ⑤熊野大花火大会後の清掃ボランティア(職員向け)
8月18日(木) 獅子巖～花の窟間の国道沿い・七里御浜海岸
- ⑥松阪市ボランティア連絡協議会との交流
11月28日(月)「視察研修」の受入 熊野市保健福祉センター多目的ホール
「社協の防災の取り組みについて、福祉教育について」をテーマに講義。

事業評価	<p>災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの素案が完成した。</p> <p>ボランティアグループの定例会等への参加、活動中の様子の見学など、一定の関わりが出来ている一方、ボランティア活動保険加入手続きのみで関係が終了しているグループもあり、ボランティア活動の詳細な状況把握が出来ていない。</p> <p>木本高校 JRC 部と社協ふれあいフェスタを中心に協力関係が出来つつある。</p> <p>昨年度のボランティア養成講座受講生（そば打ち講座）が中心となり、グループが継続的に活動できており、講師の依頼もあるなど着実に地域に根付いている。</p>				
課題	<p>災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの素案ができたものの、それに基づいた訓練の実施には至らなかった。</p> <p>ボランティア体験型の企画ができておらず、結果としてボランティア意識の向上が図れていない。</p> <p>ボランティア活動をしたい人、ボランティア活動に来てほしい人のマッチングができていない。</p>				
今後の方針	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="304 779 384 1070">重点目標</td> <td data-bbox="384 779 1402 1070"> <p>災害時対応の基盤強化。</p> <p>あらゆる人のボランティア活動（社会参加の一環としてのボランティア）を促す。</p> <p>学校や福祉施設、NPO、企業等活動主体や団体の営利・非営利ではなく、地域の課題解決に資するあらゆる社会資源と協働する。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="304 1070 384 1968">課題解決や新しい取組み</td> <td data-bbox="384 1070 1402 1968"> <p>行政関係課とも協議しながら災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの整備、訓練を実施するとともに、運営スタッフとして活躍いただける人材の養成を引き続き行っていく。</p> <p>ボランティア活動への参加・見学等を通し、関係作りを進め、直面している課題やニーズの把握を図る。</p> <p>地域ニーズに対して、多様な主体間との協働の元、ボランティア活動の企画・実践を通して、その課題の解決にあたる。</p> <p>学校や教育委員会、子ども関係の団体・組織との協働を進め、児童・生徒へのボランティア活動の推進や福祉教育を通じて、豊かな福祉観の醸成を図る。（福祉体験授業や児童生徒でも参加できるようなボランティア体験の企画実施）</p> <p>Facebook やボランティアセンター掲示板等を中心に、ボランティア情報の発信を積極的に行い、ボランティア活動の楽しさ・魅力を感じて貰う。</p> </td> </tr> </table>	重点目標	<p>災害時対応の基盤強化。</p> <p>あらゆる人のボランティア活動（社会参加の一環としてのボランティア）を促す。</p> <p>学校や福祉施設、NPO、企業等活動主体や団体の営利・非営利ではなく、地域の課題解決に資するあらゆる社会資源と協働する。</p>	課題解決や新しい取組み	<p>行政関係課とも協議しながら災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの整備、訓練を実施するとともに、運営スタッフとして活躍いただける人材の養成を引き続き行っていく。</p> <p>ボランティア活動への参加・見学等を通し、関係作りを進め、直面している課題やニーズの把握を図る。</p> <p>地域ニーズに対して、多様な主体間との協働の元、ボランティア活動の企画・実践を通して、その課題の解決にあたる。</p> <p>学校や教育委員会、子ども関係の団体・組織との協働を進め、児童・生徒へのボランティア活動の推進や福祉教育を通じて、豊かな福祉観の醸成を図る。（福祉体験授業や児童生徒でも参加できるようなボランティア体験の企画実施）</p> <p>Facebook やボランティアセンター掲示板等を中心に、ボランティア情報の発信を積極的に行い、ボランティア活動の楽しさ・魅力を感じて貰う。</p>
重点目標	<p>災害時対応の基盤強化。</p> <p>あらゆる人のボランティア活動（社会参加の一環としてのボランティア）を促す。</p> <p>学校や福祉施設、NPO、企業等活動主体や団体の営利・非営利ではなく、地域の課題解決に資するあらゆる社会資源と協働する。</p>				
課題解決や新しい取組み	<p>行政関係課とも協議しながら災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの整備、訓練を実施するとともに、運営スタッフとして活躍いただける人材の養成を引き続き行っていく。</p> <p>ボランティア活動への参加・見学等を通し、関係作りを進め、直面している課題やニーズの把握を図る。</p> <p>地域ニーズに対して、多様な主体間との協働の元、ボランティア活動の企画・実践を通して、その課題の解決にあたる。</p> <p>学校や教育委員会、子ども関係の団体・組織との協働を進め、児童・生徒へのボランティア活動の推進や福祉教育を通じて、豊かな福祉観の醸成を図る。（福祉体験授業や児童生徒でも参加できるようなボランティア体験の企画実施）</p> <p>Facebook やボランティアセンター掲示板等を中心に、ボランティア情報の発信を積極的に行い、ボランティア活動の楽しさ・魅力を感じて貰う。</p>				

拠点区分／サービス区分		法人本部／共同募金配分金事業
事業詳細区分		共同募金配分金事業
財源区分		補助・受託（市・県等）・ 単独 （会費・ 共募 ・寄付金・その他）
事業概要	目的	地域住民からのあたたかい助け合いの気持ち（赤い羽根共同募金からの配分金）の活用を図る。
	内容	前年度中に共同募金に委員会に事業計画とともに申請し、翌年度配分された金額を地域福祉活動で活用する。 また、運動についても受配者として法人全体で協力する。
実績内容	■配分実績 一般配分事業 配分額：1,811,044 円 福祉くまの 283,000 円 ふれあいいきいきサロン 398,000 円 社協ふれあいフェスタ 220,044 円 ランドセル助成 70,000 円 福祉団体助成 40,000 円 社協支部助成 800,000 円 募金に関するPRや実績および使途報告は、福祉くまのやホームページに掲載。	
事業評価	受配者の責務として、協力においても募金活動はもとより出来るだけ多くの住民の皆様へ「赤い羽根共同募金」を知ってもらうことを意識し、赤い羽根の配布や街頭啓発に力を入れた。恒例の「もちつき大会」では、過去最高の来場者を記録した。 配分金についても例年通り有効に活用している。	
課題	ランドセル購入助成事業を行っているが申請者が年々減ってきている。他の事業で使用するか助成額の変更を検討する必要があると感じる。 募金運動の協力者として、もっと理解をしてもらいやすいようにわかりやすい配分金の使途の明示が必要。	
今後の方針	重点目標	例年同様、10月から開始される募金運動に法人全体で協力する。 次年度の配分に向けて、配分事業の再検討。
	課題解決策や新しい取り組み	募金運動の有効な手法を検討し、住民の理解を得られるよう努める。 ランドセル購入助成の応募がここ数年減少していることを踏まえ、新たな助成事業の検討を行う。 平成30年度配分申請事業をしっかりと検討する。

拠点区分／サービス区分		法人本部／資金貸付事業
事業詳細区分		生活福祉資金貸付事業
財源区分		補助・ 受託 （市・ 県等 ）・単独（会費・共募・寄付金・その他）
事業概要	目的	民生委員や関係機関との連携を図りながら資金を必要とする低所得者等に対し、必要な援助指導を行うことで、経済的自立や生活意欲の助長促進、在宅福祉や社会参加の促進を図り、安定した生活が送れるよう支援する。
	内容	三重県社会福祉協議会が実施する貸付事業にかかる窓口業務を受託する。 ケース件数に応じた事務費収入（受託金）あり。 低所得者で他の制度からの融資を受けることが困難な世帯や、障がい者世帯等に対し、目的に応じた資金の貸付を行う。 「みえ福祉の『わ』創造事業」に参画し、緊急食糧提供事業等の生活困窮者支援の取り組みを合わせて実施。
実績内容	<p>【生活福祉資金】</p> <p>■相談件数 25 件</p> <p>■新規貸付</p> <p>教育支援資金 3 件 2,622,000 円</p> <p>緊急小口資金 3 件 210,000 円</p> <p>■28 年度末状況（残額）※元金・利子・延滞利子含む（平成 29 年 3 月末現在）</p> <p>総合支援資金 4 件 1,863,697 円</p> <p>福祉・教育・小口資金 55 件 36,697,810 円</p> <p>福祉・教育・小口資金 2 件 765,083 円（旧紀和町）</p> <p>離職者支援資金 1 件 2,216,467 円</p> <p>■研修会・会議への参加</p> <p>(1) 5 月 31 日（火）三重県社会福祉会館 第 1 回生活福祉資金貸付事業担当職員研修会</p> <p>(2) 2 月 7 日（火）熊野市民会館 熊野市民生委員児童委員協議会 福祉行政説明会にて制度説明</p> <p>(3) 3 月 9 日（木）三重県社会福祉会館 第 2 回生活福祉資金貸付事業担当職員研修会</p> <p>【みえ福祉の『わ』創造事業】</p> <p>■生活困窮者緊急食糧提供事業 10 件</p> <p>■緊急時物品等支援事業 0 件</p> <p>■生活困窮者就労活動支援事業 0 件</p>	
事業評価	相談者の自立に向けて民生委員をはじめ自立相談機関等との連携ができ、貸付に至らずとも他制度・他機関につながることができた。	
課題	貸付後・利用相談後のフォローアップが出来ていない。	

今後の方針	重点目標	貸付後・利用相談後に定期的に連絡・訪問をし、状況を把握することで世帯の自立に向けた適切な支援を行う。
	課題解決策や新しい取組み	借受世帯はもちろん貸付に至らなかったケースも含め、関係機関と連携し継続した支援を行うことで借受世帯・利用相談者の自立を目指す。 関連の研修会等へ積極的に参加し、職員の資質向上を図る。

拠点区分／サービス区分		法人本部／資金貸付事業
事業詳細区分		助け合い金庫貸付事業
財源区分		補助・受託（市・県等）・ <u>単独</u> （会費・共募・寄付金・ <u>その他</u> ）
事業概要	目的	低所得者に対する緊急的な経済的支援を目的とする。
	内容	生活保護受給者を除く低所得者かつ民生委員の推薦を受けた者を対象に 5 万円を上限として無利子で資金貸付を行う。
実績内容	<p>■新規貸付 0 件</p> <p>■貸付残高 15 件 762,000 円</p> <p>■生活保護つなぎ貸付 2 件 60,000 円</p> <p>※平成 29 年 3 月 31 日現在</p>	
事業評価	新規貸し付け実績はなく、生活保護受給までのつなぎ資金としての貸付が主となっている。長期滞納者の貸付について定期的に通知を行うことで返済に至ったケースや連絡が取れたケースがあったものの、残高の大半は滞納となっている。	
課題	貸付後の利用者の相談援助等のフォローアップができておらず、滞納や連絡が困難な状況に至っている。	
今後の方針	重点目標	滞納者に対し定期的に通知をし、償還を促す。
	課題解決策や新しい取組み	滞納者には定期的な通知を続けるとともに、訪問等を実施し償還に繋げる。ケースに応じて「みえ福祉の『わ』創造事業（緊急食糧提供事業や緊急時物品等支援事業等）」を活用しながら、相談者の自立に向け相談支援を行う。

拠点区分／サービス区分		法人本部／資金貸付事業
事業詳細区分		高額療養費貸付事業
財源区分		補助・受託 (市・県等)・単独 (会費・共募・寄付金・その他)
事業概要	目的	医療費の窓口負担が高額となり、一時的に生活が困難となる恐れのある方に対して、生活の維持ができるよう支援する。
	内容	国民健康保険被保険者かつ低所得者を対象に、30万円を上限に、高額療養費受給までの間のつなぎとして、支払いに必要とする資金（個人負担限度額を超えて支払う金額）を無利子で貸付する。 その他、市役所に訪れる行路者に対し、旅費と食事代を渡す。（財源は市借入金）
実績内容	<ul style="list-style-type: none"> ■新規貸付 0件 ■貸付残高 0件 0円 ■行路者旅費 2件 980円 	
事業評価	<p>他制度の充実等もあり、利用実績はない状況であるが、万が一の際のセーフティネットとしての役割をもつ事業である。</p> <p>住民税、国民健康保険税の滞納がなければ、限度額適用認定申請をすることで、この貸付制度を利用する必要がないこととなる。そのため利用が少ないとも考えられる。</p>	
課題	何年間も利用されることがない事業となっている。	
今後の方針	重点目標	制度の利用希望があった際には、適切かつ迅速な対応を行なう。
	課題解決策や新しい取り組み	市民保険課窓口等にチラシの設置依頼をするなど、制度の周知を図っていく。利用がない状況が続くようであれば、将来的に事業の必要性についても検討する。

拠点区分／サービス区分		法人本部／ふれあいセンター運営事業 くまのふれあいセンター／ふれあいセンター賃貸事業
事業詳細区分		ふれあいセンター運営事業 ふれあいセンター賃貸事業
財源区分		補助・受託（市・県等）・単独（会費・共募・寄付金・その他）
事業概要	目的	市民の福祉増進を図ることを目的とする。
	内容	市民の福祉に関する相談窓口の設置と教養、文化、レクリエーション、サークル活動を行なうものに対し、場の提供を行なう。 自治会の集会所や井戸地区社協による給食サービスや敬老会事業、災害時における避難所として活用されている。また、21年度から紀南医師会、25年度から東紀州地域産業保健センターの事務所等活用のため賃貸契約を締結している。
実績内容	<p>■会場年間利用料 収入福祉関係団体、行政および一般の方々会場を利用している。 28年度 340,953円</p> <p>■賃貸料 紀南医師会 130,000円／月、東紀州地域産業保健センター27,000円／月</p>	
事業評価	3団体との賃貸契約により、固定収入が得られている。	
課題	センターの老朽化により修繕箇所が目立ってきていることと、耐震工事の義務化に伴う準備がどの程度必要であるのか調査が必要である。	
今後の方針	重点目標	耐震改修工事については、将来の活用方法も視野に入れ行政、地元住民と協働で検討する。また、より身近で住民の皆様に利用しやすい施設となるよう検討する。
	課題解決策や新しい取組み	耐震改修工事は費用も高額になると予想され、実施することになった場合、財源確保も含め、綿密な事前準備が必要となる。そのためにも情報収集や補助金の活用などについても調査していく。

拠点区分／サービス区分		法人本部／基金運営			
事業詳細区分		基金運営事業			
財源区分		補助・受託（市・県等）・ <u>単独</u> （会費・共募・寄付金・ <u>その他</u> ）			
事業概要	目的	健全で安定した法人経営を行なうため、適正な財産管理を行なう。			
	内容	固定資産の修繕や買い替えなど将来に備え、目的別に積立を行い適正な基金の運営と管理を行なう。			
実績内容 単位 円	積立金	27年度末	積立額	取崩額	28年度末
	社協運用基金積立金	508,883	0	0	508,883
	ボランティア基金積立金	2,619,458	0	0	2,619,458
	職員退職給与金積立金	7,994,982	174,000	0	8,168,982
	基本金利子積立金	121,132	125	0	121,257
	介護保険事業運営積立金	11,441,300	0	0	11,441,300
	地域福祉基金積立金	20,000,000	0	0	20,000,000
	財政調整基金積立金	1,284,510	0	0	1,284,510
	計	43,970,265	174,125	0	44,144,390
①職員退職給与金積立金 174,000 円の積立：退職者 1 名分の退職金精算に伴うもの ②基本金利子積立金 125 円の積立：基本金にかかる貯金利息の積立					
事業評価	職員の増員、介護保険の減収に伴い基金を取り崩す結果となった。				
課題	平成 27 年度の大幅な基金の取崩しにより、将来への備えに危機感がある。				
今後の方針	重点目標	健全な積立とはどの程度なのか、専門家の意見も踏まえ、検討し明確な積立金の管理を行う。そのためにも職員一丸となり、安定した黒字経営を目指す。			
	課題解決策や新しい取組み	大幅な取崩しによる黒字経営が出来る年度においては、積立金の計画的積立ができるよう指針を定め、積立に関して行政への理解を求める。			

拠点区分／サービス区分		法人本部／受託事業
事業詳細区分		福祉サービス利用援助（日常生活自立支援事業）
財源区分		補助・ <u>受託</u> （市・ <u>県等</u> ）・ <u>単独</u> （会費・共募・寄付金・ <u>その他</u> ）
事業概要	目的	認知症高齢者や知的、精神障がい者など、判断能力が十分でない方が地域で自立した生活を送ることができるように支援を行う。
	内容	専門員及び生活支援員、推進員により、福祉サービス利用援助、日常的金銭管理サービス、書類等預かりサービスなどの支援を行う。
実績内容	<p>■支援回数 1,192回 ■相談件数 1,570件</p> <p>■契約締結件数 8件</p> <p>認知症高齢者 4件 知的障がい者 1件</p> <p>精神障がい者 3件 その他 0件</p> <p>■市町別支援活動回数（生活支援員のみ） 695回</p> <p>熊野市 464回 御浜町 214回 紀宝町 17回</p> <p>■生活支援員研修会の実施</p> <p>期日 3月29日（水） 会場 熊野市保健福祉センター 参加者 10名</p> <p>内容 生活支援員の業務について、情報交換</p> <p>■預かり書類チェック（実施者 三重県社協）</p> <p>期日 8月2日（火） 会場 熊野市保健福祉センター</p> <p>■契約締結審査会への出席（三重県社会福祉会館）</p> <p>困難事例、相談案件があれば随時</p>	
事業評価	<p>相談受付後、迅速に初回訪問を行い、事業説明や状況の把握に努めた。</p> <p>生活支援員の確保により、専門員が代行しているケースについて生活支援員に移行することができた。</p> <p>町社協の推進員と連絡を取り合い、細かな状況の把握に努めた。</p>	
課題	<p>福祉関係事業所には徐々に周知されてきており相談も多いが、民生委員や福祉委員などにはまだまだ周知不足である。</p> <p>市街地の生活支援員は確保できつつあるものの、山間部の生活支援員が不足している。</p>	
今後の方針	重点目標	<p>事業の周知を図る。</p> <p>様々な分野の研修会等に参加し、知識と技術の向上を図る。</p> <p>要綱や規程に基づく適正な事業運営と管理体制の強化を図る。</p>
	課題解決策や新しい取り組み	<p>民生委員や福祉委員の会議、研修会等で事業説明及びチラシを配布し周知を図り、1つの社会資源として活用していただく。</p> <p>契約対象者が亡くなった場合の預かり物の返却先について、契約時に予め本人に指定してもらうか、本人及び関係機関から法定相続人の調査をしておく。</p> <p>定期的に内部点検を実施することで適正な事業運営に努め、利用者の権利擁護の一助となるサービス提供を行う</p>

拠点区分／サービス区分		法人本部／受託事業
事業詳細区分		食の自立支援事業
財源区分		補助・ 受託 （ 市 ・ 県 等）・単独（会費・共募・寄付金・その他）
事業概要	目的	市内の高齢者の孤独感の解消と安否確認を行う。
	内容	在宅の一人暮らし高齢者等に対して、週 1 回栄養のバランスのとれた食事を提供し、地域のボランティア等により食事を配達することで、お弁当を手渡す際の声かけによる孤独感の解消を図るとともに安否確認等を行う。 利用者負担 300 円／1 食
実績内容	実施地区：甫母町、二木島町、二木島里町、遊木町、新鹿町、磯崎町、大泊町、木本町、井戸町、有馬町、久生屋町、金山町、神川町、育生町、五郷町、飛鳥町、紀和町の一部地区 給食数：5,040 食 配達数：4,945 件	
事業評価	担当のケアマネジャーが変わった際にその旨の連絡がないことがあり、配食についての連絡や、不在であった場合の所在確認において、まず担当ケアマネジャーを探す所から始めなければならない等、スムーズに連絡を取れないことが稀にある。 祝日定休となる配食業者が担当する地区では、祝日の配食を実施していなかったが、休止となる一部の地区において、何度か翌日に振替えて実施した。その際、配達員を通し、「振替えてもらって嬉しい。」「いつもお弁当が休みのときは一日食べないで過ごすからありがたい。」等の声が利用者からあったことを聞き、自身で食事の準備をすることが困難な方にとって、この事業が重要なものであることが確認できた。	
課題	社協が代わりに配達をおこなっている地区の配達員の確保。また、現在配食を実施していない地区では、配達員が見つからないことから、利用希望者がいてもすぐに利用できないでいるのが現状となっている。 利用者の減少。	
今後の方針	重点目標	配達員の確保。
	課題解決策や新しい取組み	社協が代わりに配達している地区の配達員を確保する。また現在、利用者がいない地区でも配達員をあらかじめ確保しておくことで、利用希望者が出た場合、スムーズに利用につなげられるように体制を整備しておく。

拠点区分／サービス区分		法人本部／受託事業
事業詳細区分		福祉バス運行事業
財源区分		補助・ 受託 (市 ・ 県等)・ 単独 (会費・共募・寄付金・その他)
事業概要	目的	公共交通機関の無い地区における、高齢者の交通手段の提供。
	内容	熊野市からの委託事業として、海岸部、山間部等、公共交通機関の無い地域で、主に診療所や最寄駅への交通手段を提供することを目的とした定期バス運行。
実績内容	海岸部・神川地区・育生地区 稼働日数 101日 利用者延べ 1,860名 ※9月30日を以て事業を終了。(他事業者により乗合タクシー事業開始)	
事業評価	<p>事業終了にあたり、各地区利用者より「なくなってほしくない」との声を多くいただいた。</p> <p>新たに始まるデマンド式乗り合いタクシー利用に対する高齢者の不安を感じるとともに、長年にわたって、高齢者の日常の交通手段として親しまれてきた福祉バスに対する愛着や親しみを感じるものである。</p> <p>また、利用者の事業移行に伴う質問等への対応は、市が作成した乗合タクシーに関するパンフレットを早い段階から福祉バスに置いたことでスムーズに行うことができた。</p>	
課題	特になし	
今後の方針	重点目標	特になし
	課題解決策や新しい取り組み	特になし

拠点区分／サービス区分		法人拠点／受託事業
事業詳細区分		高齢者生活福祉センター管理事業
財源区分		補助・受託 (市・県等)・単独 (会費・共募・寄付金・その他)
事業概要	目的	施設の管理を適正かつ円滑に行い、地域住民等に対するサービスの効果および効率の向上と、地域福祉の一層の増進を図る。
	内容	管理施設の許可、利用料金の徴収および管理施設等の維持管理について、熊野市と4月1日締結の「熊野市高齢者生活福祉センターの管理運営に関する基本協定書」に基づき業務を行なう。
実績内容	<p>地域的なことや施設機能的なこともあり、利用料収入は望めない。</p> <p>事業所として介護保険サービス、障害者デイサービス(つみき)、高齢者筋力向上トレーニング事業で利用。一般利用としては、紀和地区社協支部役員会で、給食ボランティア会議、地区住民のイベント時の踊りの事前練習としての利用があった。</p> <p>事業所利用(介護保険、障害者デイサービス、高齢者筋トレ) 延べ321日利用</p> <p>一般利用(地区社協会議等、ボランティア利用等) 延べ15日利用</p>	
事業評価	熊野市社会福祉協議会紀和事業所として位置づけする中で、介護関連事業を主としながら、市受託事業(筋力向上トレーニング事業)も実施している。高齢者の介護予防や障がい者サービスの提供、地域のボランティアにも利用され、利用料収入はないものの、有効活用されている。	
課題	建物躯体と備品類の老朽化により要修繕箇所が目立ち、応急的に修理しているため、継続しての修繕が見込まれ、そのための費用も高額となってしまう。特に電気関係や空調関係の不調が目立っている。	
課題解決に向けての今後の方針	重点目標	<p>とにかく行政予算要求時に、修繕見込箇所を把握し、行政に理解を得ながら受託金を認めてもらえるよう手続きを行う。</p> <p>修繕及び器具什器購入については、入札などの手続きを経て、出来るだけ経費削減に努めるとともに、年度当初に処理するよう心掛ける。</p>
	課題解決や新しい取組み	紀和町住民の福祉に関する相談窓口としての機能充実を図ると共に、今後の有効活用について関係課とともに引き続き検討していく。

拠点区分／サービス区分		法人本部／受託事業				
事業詳細区分		高齢者筋力向上トレーニング事業				
財源区分		補助・ <u>受託</u> (<u>市</u> ・ <u>県等</u>)・ <u>単独</u> (会費・共募・寄付金・ <u>その他</u>)				
事業概要	目的	高齢者の筋力低下を防止して体力の向上を図るとともに、要介護状態になることを予防し、より自立した生活が送れるような健康づくりを目指す。				
	内容	<p>高齢者（65歳以上）を対象に、健康チェックと高齢者向けトレーニングマシンを使用して、その方の体力に応じた負荷を与えることにより、筋力の向上を図る。</p> <p>場所 熊野市保健福祉センター及び熊野市高齢者生活福祉センター スタッフ 職員（3名） 参加費 5,000円（1クール：3ヶ月、全24回）</p>				
実績内容	■OB会会員（1期4～6月、2期7～9月、3期10～12月、4期1～3月）					
	井戸	27年度	28年度	紀和	27年度	28年度
	1期	()	2,462	1期	()	161
	2期	()	1,957	2期	()	195
	3期	()	2,160	3期	()	192
	4期	()	2,253	4期	()	197
	合計		8,832	合計		745
	■新規参加者（1期4～6月、2期7～9月、3期10～12月、4期1～3月）					
		27年度		28年度		
	1期	270		194		
	2期	274		86		
	3期	290		152		
	4期	241		152		
	合計	1,075		584		
事業評価	第1期10名、第2期4名、第3期7名、第4期7名、合計28名の新規参加者が集まってくれた。その内、26名がOB会に加入してくれている。					
課題	<p>新規参加者の殆どが木本、井戸、有馬、久生屋、金山町からの方々ばかりであり、紀和町在住の参加者が殆どいなくなっている。</p> <p>事業実施場所が、熊野市高齢者生活福祉センター（紀和町板屋）ではあるが、参加者が紀和町以外の方々ばかりになりつつある。</p>					
今後の方針	重点目標	紀和町在住の方々の新規参加の呼びかけを重点的におこなう。それにより紀和町OB会のグループ編成を拡充させる。				

	課題解決策や新しい取組み	紀和町に土地勘がある方々に口コミで参加者を紹介してもらおう。一人ひとり声かけをしてより多くの参加者を集める。
--	--------------	--

拠点区分／サービス区分		法人本部／受託事業										
事業詳細区分		障がい者就労支援事業										
財源区分		補助・受託(市・県等)・単独(会費・共募・寄付金・その他)										
事業概要	目的	障がい者が働くことを通して自立した生活が営めるよう、日常生活の相談に応じながら公共職業安定所等関係機関と連携し、障がい者の就労支援とともに、地域支援ネットワークを整備、新たな地域資源の改善・開発等に取り組み、地域での就業・生活支援機能の充実を図る。										
	内容	三重県障がい者総合相談支援センター事業(障がい者就業・生活支援事業)受託業務 基本業務⇒①相談②雇用施策等活用に関する助言③生活支援等 機能強化業務⇒①就労移行支援業務②職場実習(企業開拓・斡旋等)③職場定着支援④就労移行支援事業所等との連携及び支援等										
実績内容	年間利用者数		27年度					28年度				
			身体	知的	精神	他	合計	身体	知的	精神	他	合計
		就労移行	0	3	2	0	5	1	3	7	0	11
		現場実習	1	2	1	0	4	0	0	7	1	8
	相談件数	25	268	130	26	420	20	272	217	51	560	
事業評価	小規模就業・生活支援センターの受託に向けて準備を進めることができ、平成 29 年度から受託することとなった。まずはこの地域に必要な社会資源を一つ増やすことができたと評価できる。											
課題	精神、知的、身体と支援対象となる障がい種別は多岐にわたり、知識の向上と関係機関との連携強化が必要である。											
今後の方針	重点目標	小規模就業・生活支援センターの運営をスムーズに行う。										
	課題解決策や新しい取り組み	人員を一人増員し、支援体制の強化を図る。 障がい者雇用に関する知識を深めるため、専門的な研修に参加する。 集計システムを取り入れ、実績の管理を徹底する。										

拠点区分／サービス区分		法人本部／受託事業
事業詳細区分		生活支援体制整備事業
財源区分		補助・ <u>受託</u> (<u>市</u> ・ <u>県等</u>)・ <u>単独</u> (会費・共募・寄付金・ <u>その他</u>)
事業概要	目的	地域包括ケアシステムにおける「地域づくり」として、高齢者に対する「介護予防と生活支援」を充実させるため、多様な主体の参画を得ながら、地域にとって必要なサービスの検討やそれにかかる提供体制を構築する。
	内容	市内全域及び日常生活圏域を対象に、多様な主体間の定期的な情報共有・連携強化の場として「協議体」を設置するとともに、関係者のネットワークや既存の取組・組織等も活用しながら、コーディネート業務を行なう「生活支援コーディネーター」を配置し、生活支援・介護予防サービスの体制・提供整備及び高齢者の社会参加の活性化を促す。協議体では、地域づくりにおける意識の統一を図り、地域のニーズ把握をとおして企画、立案、方針策定し、必要に応じて地域への働きかけを行う。また、生活支援コーディネーターは、担い手の養成・発掘などサービスの開発や地域のニーズと地域支援のマッチングなどを行う。
実績内容	<p>■広域（紀南地域）としての動き</p> <p>各市町が第1層という位置づけに変更されたものの、広域連合が介護保険制度を運営していることを鑑み、27年度に引き続き、御浜町が主導となって、各市町地域包括支援センター、社協職員および紀南介護保険広域連合職員で構成する検討委員会を開催し、協議体にて検討協議を行なった。主に情報の共有と調整の場としての役割をもつ。</p> <p>○生活支援体制整備事業検討委員会への出席※委員構成メンバー：熊野市、御浜町、紀宝町の社協および地域包括支援センター職員、広域連合職員</p> <p>第1回4月11日（月）、第2回5月9日（月）、第3回6月1日（水） 第4回7月4日（月）、第5回8月4日（木）、第6回9月5日（月）、 第7回10月26日（水）、第8回12月19日（月）、第9回2月3日（金）</p> <p>○生活支援体制整備事業検討協議体への出席</p> <p>第1回 7月28日（木） 第2回 2月6日（月）</p> <p>○新しい地域支援事業作業部会への出席 ※第10回から出席依頼あり</p> <p>第10回 2月3日（金） 第11回 3月3日（金）</p> <p>○福祉講演会への参加</p> <p>『新しい総合事業への移行にむけて』 医療経済研究機構 研究部 服部真治氏</p> <p>※協議体構成メンバーを対象とした講演会 10月28日（金）御浜町役場</p> <p>○生活支援コーディネーター養成研修受講 2名 9月1日（木）三重県地方自治労働文化センター</p>	

実績内容

■熊野市としての動き

28年度から熊野市より事業受託し、準備段階となる27年度から継続して、社協と地域包括支援センターで検討委員会を定期的開催し、協議体の進め方や生活支援体制整備について協議検討を行った。また、神川町在住65歳以上の要介護認定を受けていない方を対象にモデル事業として健康づくりツアーを実施。買い物支援と同時に心身リフレッシュによる健康増進、仲間づくりを意図した内容で毎月1回実施。協議体では、法改正内容の理解に始まり、地域における生活支援ニーズと現存する社会資源を把握することで情報の共有化を図り、理想的な地域の将来像と課題解決に向けた検討につなげ、関係団体や組織がもつ性格を互いに活かした地域づくりを目指した。

○熊野市生活支援体制整備事業 検討会議※熊野市社協と地域包括支援センター

第1回 4月28日(木) 第2回 6月7日(木) 第3回 7月4日(火)
 第4回 8月1日(月) 第5回 9月9日(金) 第6回 10月3日(月)
 第7回 11月2日(水) 第8回 12月8日(水) 第9回 1月10日(火)
 第10回 2月8日(水) 第11回 3月6日(水)

○モデル事業 健康づくりツアー

実施前の住民説明会 4月26日(火) 神上生活改善センター／花尻集会所

第1回 5月18日(水) 5名 新宮市 東宝ホウル／スーパーセンター
 第2回 6月29日(水) 16名 伊勢市 伊勢神宮
 第3回 7月27日(水) 19名 那智勝浦町 那智大社／ホテル浦島
 第4回 8月24日(水) 15名 松阪市 農業公園ベルファーム
 第5回 9月21日(水) 15名 津市 山口観光ぶどう梨園／野田米菓
 第6回 10月27日(木) 17名 明和町 伊ノモル明和
 第7回 11月21日(月) 20名 高野山 金剛峰寺ほか
 第8回 12月21日(水) 17名 熊野の宿 海ひかり
 第9回 1月25日(水) 19名 本宮町 本宮大社／スーパーセンター
 第10回 2月22日(水) 17名映画上映会(永遠の0) 神上生活改善センター
 第11回 3月15日(水) 21名座談会(1年の振り返り) 神上生活改善センター

○ブロック協議体

<山間部>第1回6月21日(火)、第2回7月13日(水)、第3回8月23日(火)

第4回9月26日(月)、第5回10月25日(火)

<紀和>第1回6月24日(金)、第2回7月19日(火)、第3回8月22日(月)

第4回9月28日(水)、第5回10月18日(火)

<中心部>第1回6月27日(月)、第2回7月20日(水)、第3回8月19日(金)

第4回9月16日(金)、第5回10月19日(水)

<海岸部>第1回6月30日(木)、第2回7月26日(火)、第3回8月26日(金)

第4回9月23日(金)、第5回10月24日(月)

	<p>○市全体協議体 第1回7月28日(木)、第2回9月29日(木)、第3回10月31日(月)</p> <p>○生活支援体制整備事業研修会 2月1日(水) 保健福祉センター 講師：中部学院大短期大学部 准教授 大井智香子氏 協議体構成団体員を中心に95名が参加</p> <p>○その他 ①地区社協役員会や老人クラブ研修会など先方からの要望に基づき、新しい総合事業に関する概要説明を行うことで周知啓発を行う。 ②検討会議メンバー有志が有馬第2公民館で『もちより食堂』を開始。 初回となる8月6日(土)以降、毎月第3土曜日に開催。気軽に誰でも立ち寄れる場の提供と次世代担い手発掘のきっかけづくりが主目的。子供から高齢者まで毎回30名近くの参加あり。</p>
事業評価	<p>高齢者を取り巻く課題やその解決および今後の地域づくりに向けて、地域包括支援センターと協働で取り組める機会が増すことにより、連携強化が期待できる。</p> <p>各地区での協議を進める中で、それぞれでの住民互助も少しではあるがみられることが確認できた。</p> <p>協議体を通し、5年後10年後といった将来の地域像や地域包括ケアシステム構築をはじめとする生活支援ネットワークの必要性等をメンバー間で認識、共有することができた。</p> <p>実施中のモデル事業について、定期的外出機会の確保により、心身機能の向上や住民交流、また地区の各種活動参加への動機づけを行うことができています。</p>
課題	<p>地域包括ケアシステムの重要性等、生活支援体制整備について協議体メンバー間での共有は図れているものの、今後は地域住民への周知啓発が必要である。特に担い手確保といった視点においては、若年層への理解と協力が得られていない。</p> <p>高齢化等での担い手不足を理由として、新しい取組について消極的な地区が多い。地域づくりに向け、関係職種で連携した実践活動を仕掛けられるかが重要である。</p>
今後の方針	<p>重点目標</p> <p>①協議体を中心とした、地域全体での情報共有。 ②資源開発と既存資源の維持。 ③担い手の発掘と養成 ④住民主体の介護予防活動や生活支援ネットワークの形成 ※民間が個々に行う地域貢献との連携</p>

課題解決策や新しい取組み	<p>①協議体での協議の継続とともに、地域の将来像を含めた地域支援ネットワークの重要性等について、住民に対する周知啓発研修等を実施する。また、協議体等へは若年層への参加も呼びかけていく。</p> <p>⇒福祉的観点にとらわれず、住民誰もが地域の支え合いの中で自分らしくいきいきと生活できるような環境を整えていくことに対し、協議体構成団体を中心に広く住民への周知と理解を求めることを目的とした啓発と担い手確保のための研修会を開催していく。将来的な地域を考えていく中で、協議体構成メンバーとして、地域で活躍する青年団やボランティアグループなど若年層の参画を得るとともに、有志で活動を開始している『もちより食堂』を通じて、次世代担い手に対する働きかけも行っていく。</p> <p>②引き続き協議体での協議とともに、生活支援コーディネーターを中心としてニーズと資源とのマッチングを図りながら既存資源の維持にもつなげていく。ニーズと地域資源に関する情報を、行政や市内介護保険事業所をはじめとする多様な主体が共有しながら、理想とする地域の将来像とのズレ（不足する資源）について、それぞれがもつ力をあわせながら、新たな資源開発につなげられるよう積極的な働きかけをおこなっていく。</p> <p>⇒地域包括ケアシステム構築の必要性の一つとして 2025 年問題が背景に存在するが、当市は高齢化率 41%超の地域である。その現状の中、既に住民互助が根付く地区が多い反面、介護予防や生きがいがづくり等に目的を置いた“溜まり場”創出のニーズも多くみられる。</p> <p>新たな担い手不足とともに若年層の理解・協力不足を課題として挙げた時、「住民主体」を根底としながらも、福祉活動専門員（生活支援 CO）やボランティア CO 等から行う、地区内の活動に対する動機づけや仕掛けが重要となる。その一つの手段として、日進地区で開始予定のモデル事業があるが、それが軌道に乗った時点で、その他ニーズの高い地区へも同事業を派生させていくことを行う。担い手には熊野市ボランティアセンター登録者の活用も大いに含みながら、選定した地区の役員や民生委員、地区社協とも随時的な協議を開催する。</p> <p>また、地区住民が参集する場にも積極的に関わりを持ちながら、既存資源を壊さず安定的に維持させていくためには、どのような支援を融合させるべきか等を再調査するとともに、地域の関係性拡大を図る。</p> <p>③対象地区を選定し、試験的に通所型の取組を実践する。</p> <p>⇒各ブロック協議体から抽出された生活支援ニーズを踏まえ、“買い物”と“通い”の機能を融合させたサロンを実施し、住民の参加意欲に基づく介護予防活動や生活支援ネットワークの形成に向けた取組を展開していく。</p> <p>具体的には…</p> <p>生活支援ニーズの高かった山間部（日進地区）を選定。旧あすか保育所を有効活用し、住民主体のサロンを実施。また、買物ニーズが高いことから、サロン場所には個人商店等による出張販売を展開する。</p>
--------------	---

課題解決策や新しい取り組み	<p>サロン内の雰囲気はカフェをイメージし、コーヒー等の喫茶コーナーや子供の来所も想定した駄菓子ブースを設ける。喫茶は参加者自らが豆を挽き、淹れる全ての過程をセルフサービスとする。囲碁や将棋といった遊び道具は準備するものの、あくまで住民主体のサロンであり、サロン内の活動の多くは参加者同士の発想に委ね、生活支援コーディネーターとして、それらの過程を支援していく。</p> <p>サロンの開始は5月より毎週1回（10:00～15:00）の頻度で実施していくこととするが、4月より民生委員や自治会長等をはじめとする地区住民とともに、実施場所の清掃や整備、サロンで使用する机や椅子等の備品においても製作する。また、サロンに集う住民等から挙がる生活支援ニーズの把握も意識しながら、可能であれば、参加者間（住民間）での互助へと派生できるコーディネーターも展開していく。</p>
---------------	---

拠点区分／サービス区分		介護事業所（井戸）／居宅介護支援事業	
事業詳細区分		居宅介護支援事業	
財源区分		補助・受託（市・県等）・ <u>単独</u> （会費・共募・寄付金・ <u>その他</u> ）	
事業概要	目的	利用者が要介護状態にあっても、可能な限り居宅において自立した日常生活を営むことができることを目指し、適切な保健医療サービス及び福祉サービスを総合的かつ効率的に提供されるよう、公平中立な居宅介護支援を行う	
	内容	要介護者からの相談に応じるほか、要介護状態がその心身の状況・環境などに応じて居宅サービス又は施設サービスを適切に利用できるよう計画を作成、サービスの提供が確保できるようサービス事業者、介護保健施設と連絡調整を行う。	
実績内容		27年度	28年度
	要支援 1	51	43
	要支援 2	173	129
	小計	224	172
	要介護 1	314	244
	要介護 2	424	415
	要介護 3	327	347
	要介護 4	186	184
	要介護 5	153	107
	小計	1,404	1,297
合計	1,628	1,469	
事業評価	今年度は職員が1名減少し3名体制となったが、介護給付に関しては1月から3月までの見込み者数を考慮すると前年度とほぼ同数となっている。現在はケアマネ1人あたり担当件数が35～6名程度となっているが、月によっては担当件数が40名を超えてしまう月もあった為、特定事業所加算をとっていることから今後は、担当件数の変動に注意しながら新規利用者の受入を行っていききたい。		
課題	安定した担当件数の確保と維持。特定事業所加算算定要件の維持。特定事業所集中減算への対応（次期改定によりサービス割合が9割超から8割超へ変更）		
今後の方針	重点目標	担当件数の安定化。 来訪者がいつでも相談したいと思える、窓口にしたい。その為には、サービスにつながらないケースでも丁寧に対応していくことが重要。	
	課題解決策や新しい取り組み	安定した担当件数の確保については、係内においても随時検討する。窓口相談等の来訪者にも丁寧にわかりやすい説明を心がけていく姿勢が大切である。特定事業所加算算定要件である、定例会議の開催、ネットワーク会議等への参加、関係機関等の連携を継続していく。利用者の希望やサービス事業所の特色を考慮し、事業所選定を行う。電話で相談があった場合等には直ぐに自宅訪問する。また、本人死去により担当を終了したケースでも、時々は訪問する等残された家族へのフォローも行いたい。	

拠点区分／サービス区分		介護事業所（井戸）／訪問介護事業	
事業詳細区分		訪問介護事業	
財源区分		補助・受託（市・県等）・ <u>単独</u> （会費・共募・寄付金・その他）	
事業概要	目的	高齢者が在宅で安心して暮らしていけるよう援助し、家族の介護負担の軽減や相談、介護指導を行い、その人らしい生活が送れるよう援助していく	
	内容	身体介護(入浴、清拭、手足浴、着替え等) 生活援助(洗濯、掃除、料理、買い物等) 通院等乗降介助	
実績内容		27年度	28年度
	要支援 1	1,794	1,279
	要支援 2	3,025	3,482
	総合事業対象者		81
	小計	4,819	4,842
	要介護 1	3,442	2,998
	要介護 2	7,838	7,744
	要介護 3	3,833	4,111
	要介護 4	1,594	839
	要介護 5	3,060	2,661
	小計	19,767	18,353
	合計	24,586	23,195
事業評価	<p>介護保険の利用者実数はほぼ横ばいだが、延べ利用者数は減少している。登録ヘルパー不足が続いており、新規利用者やサービス増加の受け入れが困難な状況が続いているが、可能な限り対応して利用者支援に努めた。</p> <p>積極的に研修に参加し、質の向上に努めた。</p>		
課題	<p>登録ヘルパー不足や訪問希望時間が集中していることでシフト作成に時間が費やされる。</p> <p>全体ミーティングの回数が少なかった。</p>		
今後の方針	重点目標	引き続き登録ヘルパーの募集を続けていく。登録ヘルパー全体ミーティングを計画し、サービスの質の向上、事故防止に努める。	
	課題解決策や新しい取組み	登録ヘルパーの募集方法や働き方を検討して人員を確保していく。 研修やミーティングの内容を充実させる。	

拠点区分／サービス区分		介護事業所（井戸）／通所介護事業	
事業詳細区分		通所介護事業	
財源区分		補助・受託（市・県等）・ <u>単独</u> （会費・共募・寄付金・ <u>その他</u> ）	
事業概要	目的	介護保険関係法令の趣旨にしたがって、利用者がその有する能力に応じ、可能な限り自立、若しくは快適な日常生活を営むことができるように支援する。	
	内容	居宅介護支援事業者、又は利用者本人が作成した「居宅サービス計画」に基づき次のサービスを提供する。 送迎、食事（昼食・間食）、日課活動（趣味創作活動・レクリエーション・音楽活動・生活動作訓練・季節行事・園芸など）、入浴（一般入浴、特殊入浴）。	
実績内容		27年度	28年度
	要支援 1	387	221
	要支援 2	651	743
	小計	1,038	964
	要介護 1	1,325	1,174
	要介護 2	1,468	2,067
	要介護 3	598	1,305
	要介護 4	334	658
	要介護 5	430	383
	小計	4,155	5,587
	合計	5,193	6,551
事業評価	<p>井戸）サービス提供時間の延長、加算の見直し、臨時利用、新規利用者の受入れを積極的に行なってきた。利用者の実人数、件数共に昨年度より増えており、収益のアップにつなげることができた。稼働日の関係もあるが受け入れ体制を再度整備し、利用率を低下させないように努めていきたい。</p> <p>神川）利用者の実人数、件数共に減少傾向だったが、社協以外の事業所が存在していないことや交通事情等により様々な面で支障はあるが、プログラムの充実等を図り新規利用者の受け入れは積極的に取り組んだ。</p> <p>新鹿）利用者数は前年度と大差ないが、利用件数については増加している。</p>		

課題	<p>井戸) 利用者の重度化、ニーズの多様化が進む一方で、当事業所を選んで利用してもらえるように、受入れ体制を整備していく。既存利用者の当事業所への定着や曜日の追加、新規利用者の獲得に向け、利用者や家族、居宅事業所等へ利用してもらいやすい環境が必要。</p> <p>神川) 社協以外の事業所がない。人口が少ないことから、利用者の増員が見込みにくい。施設、設備の老朽化。</p> <p>新鹿) 近隣に同業種の事業所が存在する。施設、設備の老朽化。</p>
今後の方針	<p>重点目標</p> <p>井戸) 既存利用者の定着及び利用日の追加、新規利用者の受け入れ体制を整備し、地域の高齢者から選ばれる事業所を目標に取り組んでいく。</p> <p>神川) 出来る限り継続、充実した運営。老朽化した施設、設備への計画的な対応。</p> <p>新鹿) 選ばれる事業所となれるよう、受け入れ体制の整備。</p>
課題解決策や新しい取り組み	<p>井戸) 収益は増加傾向にあるが、サービスの質や安全面が低下しまいように職員が一丸となってサービスの充実に取り組んでいく。井戸デイをもっと多く利用してもらえるよう、休んだ日は振り替え利用ができるように利用者、家族、居宅事業所へ呼びかけ、受入れ体制を整備していく。</p> <p>神川) 地域で唯一の事業所であることを再認識し、今後も変わらず充実運営を心がけ、少しでも長く継続運営できるよう努める。施設、設備の異常には、早めに対応する。</p> <p>新鹿) 利用される方と、地域住民の利益を第一に考えて、引き続き充実した運営に努める。神川と同様、施設、設備の異常には、早めに対応する。</p>

拠点区分／サービス区分		介護事業所（井戸）／訪問入浴介護事業	
事業詳細区分		訪問入浴介護事業	
財源区分		補助・受託（市・県等）・ <u>単独</u> （会費・共募・寄付金・その他）	
事業概要	目的	要介護状態にある高齢者に対し居宅における入浴の援助を行い、身体の清潔の保持、心身機能の維持等を図ることを目的とする。	
	内容	入浴時における健康チェック、移動介助、入浴介助、状態観察、寝衣交換等を行う。	
実績内容		27年度	28年度
	要介護 2	3	13
	要介護 3	3	1
	要介護 4	86	105
	要介護 5	332	290
	合計	424	409
事業評価	<p>昨年度に比べ利用者数、収益共に減少傾向にあるが、通所介護事業と職員を統合することで人件費の削減を行なった。スタッフが入れ替わったことで当初は連携不足な面もあったが、固定の入浴スタッフとデイスタッフが協力しあい、日々協議することで職員間の連携、調整も円滑に行なえるようになった。また、その中においても変わらず利用者個々の ADL（日常生活動作）に沿ったサービスの提供に努めた。</p>		
課題	<p>新規利用者の受け入れ。 職員間の調整。</p>		
今後の方針	重点目標	<p>新規利用者の利用受け入れ。 チームワークの強化と工夫による、更なる効率化。</p>	
	課題解決策や新しい取組み	<p>キャンセル等で入浴できないときは別日に入浴できるようにし、利用に繋げていけるように連絡調整を行う。 新規利用者の受け入れがおこなえるよう業務の調整を行う。 デイスタッフと一丸となってチームワークの形成に努める。</p>	

拠点区分／サービス区分		介護事業所（井戸）／地域活動支援センター事業	
事業詳細区分		地域活動支援センター事業（つみき）	
財源区分		補助・受託（市・県等）・ <u>単独</u> （会費・共募・寄付金・ <u>その他</u> ）	
事業概要	目的	障がい者（児）が有する能力および適性に応じ、自立した日常生活または、社会生活を営むことができるよう、障害者自立支援法に基づき、創作的活動、生産活動の機会の提供、社会との交流の促進、日中における活動の場を確保し、家族等の就労支援及び介護負担の軽減を図る。	
	内容	創作的作業（季節の行事にあったものづくり） 社会との交流（地域の行事への参加、史跡の見学や遠足など） レクリエーション、食事の提供、介助、送迎	
実績内容	延べ利用者数	27年度	28年度
		278	369
事業評価	<p>今年度から、紀和デイサービスの調理から業者の弁当に切り替えたため、最初は戸惑いのある方もいたが、2～3ヶ月で皆慣れてくれた。今では自主的にレンジで温めたり、インスタントみそ汁を作ったりしてもらっている。</p> <p>社会参加のための支援も担っているが、平成29年2月より、1名が南紀さんさんワーク（就労継続支援B型）に通勤されることとなり1名減となった。</p>		
課題	<p>内容のマンネリ化。</p> <p>利用者の能力差が大きくあり、プログラムの企画が難しい。</p>		
今後の方針	重点目標	<p>自主性、協調性を培ってもらうことを支援し、内容の充実化を図る。</p> <p>グループをつくり、助け合ったり、他者を参考にしてもらいながら行動してもらえる機会をつくる。</p>	
	課題解決策や新しい取組み	<p>「つみき」への主体的な参画を意識してもらうようにするため、参加者の方々に計画や準備から参加してもらう。</p> <p>チーム対抗のゲームなどを企画する。</p> <p>毎月、ホットプレートを使ってピザ、ホットケーキなどの簡単な間食を皆で作って食べることを企画する。</p> <p>利用者でゴミの分別をやってもらい。自宅でもそれを実践してもらう。</p>	

拠点区分／サービス区分		介護事業所（井戸）／特定相談支援事業	
事業詳細区分		特定相談支援事業	
財源区分		補助・受託（市・県等）・ <u>単独</u> （会費・共募・寄付金・ <u>その他</u> ）	
事業概要	目的	利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者の身体状況、その置かれている環境等に応じて、利用者又はその保護者の選択に基づき、適切な保健、医療、福祉、就労支援、教育等のサービスが、多様な事業者から総合的かつ効果的に提供されるように、援助を適切におこなう。	
	内容	障害者総合支援法の趣旨に従って、利用者からの依頼を受けて公正中立な立場でサービス利用等計画を作成する。また、目標に沿ってサービスが提供されるよう福祉サービス等の事業者と連絡調整をおこなったり、希望に応じてサービス等利用計画の変更をおこなったりする。	
実績内容	延べ利用者数	27年度	28年度
		67	54
事業評価	相談支援専門員がケアマネジャー的な存在であることが徐々に浸透してきている。しかし、当事者、家族と関われる回数、機会が少ないのでまだまだ理解の進み方が足りないと感じられる。		
課題	重症心身障がい者に対応できる社会資源が全くないので提案できない。 特定相談支援事業は、当事者及び家族と関わる回数、機会が少ないので、相談支援専門員が相談相手であることを本人、家族に理解してもらいにくい。		
今後の方針	重点目標	紀南地域で利用できる障がい福祉サービスは数限りがあるので、提供させてもらう情報の範囲を尾鷲市方面などや新宮市方面などにも広げて有効な支援計画を提案できるようにする。	
	課題解決策や新しい取組み	情報提供や不定期的な訪問を増やして、より多く当事者や家族との接点を作ることを心掛ける。	

拠点区分／サービス区分		介護事業所（飛鳥）／居宅介護支援事業	
事業詳細区分		居宅介護支援事業	
財源区分		補助・受託（市・県等）・ <u>単独</u> （会費・共募・寄付金・ <u>その他</u> ）	
事業概要	目的	利用者が要介護状態にあっても、可能な限り居宅において自立した日常生活を営むことができることを目指し、適切な保健医療サービス及び福祉サービスを総合的かつ効率的に提供されるよう、公平中立な居宅介護支援を行う	
	内容	要介護者からの相談に応じるほか、要介護状態がその心身の状況・環境などに応じて居宅サービス又は施設サービスを適切に利用できるよう計画を作成、サービスの提供が確保できるようサービス事業者、介護保健施設と連絡調整を行う。	
実績内容		27年度	28年度
	要支援 1	28	42
	要支援 2	35	46
	小計	63	88
	要介護 1	306	323
	要介護 2	283	457
	要介護 3	230	301
	要介護 4	97	77
	要介護 5	32	37
	小計	948	1,195
合計	1,011	1,283	
事業評価	井戸居宅事業所スタッフの減少により年度初めに 10 数件引き継いだ。その件数を差し引いても要介護の利用件数が大幅に増加した。要介護 1、2 の利用者の増加が著しいが、その内容としては一部新規があるものの、殆どが要支援からの移行したケースとなっている。どちらも包括支援センターからの紹介によるものが多かった。		
課題	今年度、予想を上回る新規依頼があり全体件数を増やすことができたが、上限までには至っていない。		
今後の方針	重点目標	現在の利用者件数を確保しつつ、どんなケースであっても対応できるスキルの向上を図り、関係機関からより信頼される体制を作っていく。	
	課題解決策や新しい取組み	今年度の利用者件数を上限まで増やし、利用者の要介護状態が悪化しないように、それぞれのケアマネジメント力を高めていくことで、担当件数を維持できるよう努める。	

拠点区分／サービス区分		介護事業所（飛鳥）／訪問介護事業	
事業詳細区分		訪問介護事業	
財源区分		補助・受託（市・県等）・ <u>単独</u> （会費・共募・寄付金・ <u>その他</u> ）	
事業概要	目的	高齢者が在宅で安心して暮らしていただけるよう援助し、家族の介護負担の軽減や相談、介護指導を行い、その人らしい生活が送れるよう援助していく	
	内容	身体介護(入浴、清拭、手足浴、着替え等) 生活援助(洗濯、掃除、料理、買い物等) 通院等乗降介助	
実績内容		27年度	28年度
	要支援 1	680	1,063
	要支援 2	1,520	1,371
	総合事業対象者		48
	小計	2,200	2,482
	要介護 1	2,870	2,043
	要介護 2	2,341	4,872
	要介護 3	3,422	4,218
	要介護 4	1,115	767
	要介護 5	130	184
	小計	9,878	12,085
	合計	12,116	14,567
事業評価	施設入所 6 名、死亡 4 名、長期入院 1 名、他事業所移行 1 名、転出 5 名、新規は 17 名あった。昨年度より低迷が続いていたが、減少に比べ新規が上回った事、新規の中でも毎日型があった事、既存利用者の重度化で訪問回数や身体介護が増えたことなどで巻き返しをはかる事ができ、収入は大幅に増えた。しかし、ヘルパー不足は続いており、1 人のヘルパーに多くの訪問を任せ、負担をかけた。		
課題	順調に収入を増やしていていたが、サービス提供責任者の担当限度件数 80 件を前後する状態となっており、このままでは利用者の受け入れができない状態となっている。		
今後の方針	重点目標	利用者情報の共有。 サービスの質の向上。	
	課題解決策や新しい取組み	サービス提供責任者を増員し、新規利用者を受け入れる。 同じく、担当利用者への十分なサービスに努め、なかなか手の回らない書類整理の時間を作る。	

拠点区分／サービス区分		介護事業所（飛鳥）／通所介護事業	
事業詳細区分		通所介護事業	
財源区分		補助・受託（市・県等）・ <u>単独</u> （会費・共募・寄付金・ <u>その他</u> ）	
事業概要	目的	介護保険関係法令の趣旨にしたがって、利用者がその有する能力に応じ、可能な限り自立、若しくは快適な日常生活を営むことができるように支援する。	
	内容	居宅介護支援事業者、又は利用者本人が作成した「居宅サービス計画」に基づき次のサービスを提供する。 送迎、食事（昼食・間食）、日課活動（趣味創作活動・レクリエーション・音楽活動・生活動作訓練・季節行事・園芸など）、入浴（一般入浴、特殊入浴）。	
実績内容		27年度	28年度
	要支援 1	83	63
	要支援 2	25	102
	小計	108	196
	要介護 1	475	523
	要介護 2	491	786
	要介護 3	817	895
	要介護 4	346	248
	要介護 5	30	55
	小計	2,159	2,507
合計	2,267	2,703	
事業評価	前年度を2割増し程度上回る実績を残すことができた。サービス内容の工夫はもとより、事業所内の他部署の協力のお陰で、前年度の悪化を挽回することができたのだと思う。		
課題	以前に比べ、今まで自立していた利用者が、歩行、トイレ、入浴など介助が必要なケースが目立ってきている。また、新規利用者においても重度のケースが増えている。		
今後の方針	重点目標	利用者の希望を尊重しつつ、デイサービスに満足していただくことはもとより、在宅生活にも張りが出るような支援を提供していきたい。	
	課題解決策や新しい取り組み	適切なケアを行えるよう、ミーティングを通じて、個人が必要としていることに着目できるよう利用者個人の情報を皆で共有し、共通認識を持ってサービスに当たるようにする。	

拠点区分／サービス区分		介護事業所（紀和）／居宅介護支援事業	
事業詳細区分		居宅介護支援事業	
財源区分		補助・受託（市・県等）・ <u>単独</u> （会費・共募・寄付金・ <u>その他</u> ）	
事業概要	目的	利用者が要介護状態にあっても、可能な限り居宅において自立した日常生活を営むことができることを目指し、適切な保健医療サービス及び福祉サービスを総合的かつ効率的に提供されるよう、公平中立な居宅介護支援を行う	
	内容	要介護者からの相談に応じるほか、要介護状態がその心身の状況・環境などに応じて居宅サービス又は施設サービスを適切に利用できるよう計画を作成、サービスの提供が確保できるようサービス事業者、介護保健施設と連絡調整を行う。	
実績内容		27年度	28年度
	要支援 1	19	12
	要支援 2	39	41
	小計	58	53
	要介護 1	178	132
	要介護 2	210	280
	要介護 3	170	190
	要介護 4	113	107
	要介護 5	52	37
	小計	723	746
合計	781	799	
事業評価	前年度に比べ要支援は状態変化で介護に変更。要介護はやや増加している。新規の依頼もあるが、死亡や入院、施設入所希望や、家族が住む土地に移住したりするケースが増えている。今後もこのようなケースが予想される事から、病院、民生委員、地域住民の方と連携を強化。給付管理対象外の利用者数を把握し、柔軟に新規受け入れが行えるよう係内での相談を深めた。		
課題	担当地域では、新規相談があってもサービス事業所が限られているため、利用者のニーズ、必要なサービスに繋げていく事ができなく利用に繋がらない事もある。		
今後の方針	重点目標	担当件数の安定化。来訪者がいつでも相談したいと思える、窓口にしたい。その為には、サービスにつながらないケースでも丁寧に対応していくことが重要である。	
	課題解決策や新しい取り組み	安定した担当件数の確保については、係内においても随時検討する。窓口相談等の来訪者にも丁寧にわかりやすい説明を心がけていく姿勢が大切である。特定事業所加算算定要件である、定例会議の開催、ネットワーク会議等への参加、関係機関等の連携を継続していく。利用者の希望やサービス事業所の特色を考慮し、事業所選定をおこなっていく。電話で相談があった場合等には直ぐに自宅訪問する。また、本人死去により担当を終了したケースでも、時々は訪問する等残された家族へのフォローも行いたい。	

拠点区分／サービス区分		介護事業所（紀和）／訪問介護事業	
事業詳細区分		訪問介護事業	
財源区分		補助・受託（市・県等）・ <u>単独</u> （会費・共募・寄付金・ <u>その他</u> ）	
事業概要	目的	高齢者が在宅で安心して暮らしていけるよう援助し、家族の介護負担の軽減や相談、介護指導を行い、その人らしい生活が送れるよう援助していく	
	内容	身体介護(入浴、清拭、手足浴、着替え等) 生活援助(洗濯、掃除、料理、買い物等) 通院等乗降介助	
実績内容		27年度	28年度
	要支援 1	339	369
	要支援 2	661	461
	総合事業対象者		53
	小計	1,000	883
	要介護 1	1,283	571
	要介護 2	684	1,198
	要介護 3	1,515	1,921
	要介護 4	1,289	1,644
	要介護 5	1,180	1,266
	小計	5,951	6,601
	合計	6,951	7,484
事業評価	全体的に利用者数は増加傾向。サービスの内容の傾向は、死亡、施設への本入所などが続き、身体介護が減少し、生活援助や生活援助と身体介護の複合型が増加している。月1回のミーティング開催の徹底と、内容の充実を図り、情報の共有による円滑な活動が行えた。人材も確保する事ができ、利用者を増やす事ができた。また、研修等に積極的に参加するようにし、サービスの質の向上に繋がるように努めた。		
課題	通院の希望が増加し、事務の時間が確保できなくなってきた。登録者数は減少しているが、1人が希望する利用回数が増え、同じ曜日、同時間帯に利用希望が集中し、受け入れが難しい状況が続いている。		
今後の方針	重点目標	慌てず落ち着いて、安全安心なサービス提供を徹底する。 新規利用相談では、サービスが早く利用できるよう対応する。	
	課題解決策や新しい取り組み	事務の効率化を図る。 3事業所の会議を定期的開催し情報交換する。 研修等にみんなで積極的に参加し、全体で質の向上を図る。	

拠点区分／サービス区分		介護事業所（紀和）／通所介護事業	
事業詳細区分		通所介護事業	
財源区分		補助・受託（市・県等）・ <u>単独</u> （会費・共募・寄付金・ <u>その他</u> ）	
事業概要	目的	介護保険関係法令の趣旨にしたがって、利用者がその有する能力に応じ、可能な限り自立、若しくは快適な日常生活を営むことができるように支援する。	
	内容	居宅介護支援事業者、又は利用者本人が作成した「居宅サービス計画」に基づき次のサービスを提供する。送迎、食事（昼食・間食）、日課活動（趣味創作活動・レクリエーション・音楽活動・生活動作訓練・季節行事・園芸など）、入浴（一般入浴、特殊入浴）。	
実績内容		27年度	28年度
	要支援 1	198	142
	要支援 2	585	494
	小計	783	636
	要介護 1	842	482
	要介護 2	844	1,035
	要介護 3	823	1,011
	要介護 4	405	371
	要介護 5	27	31
	小計	2,941	2,930
合計	3,724	3,566	
事業評価	法改正により、小規模から通常規模への変更を余儀なくされ、給付費の減額の影響が大きかった。新規利用者の確保に力を入れ、前半は増加傾向にあったが、秋中盤から後半にかけて体調を崩し、利用者数が思うように伸びなかった。今後は今年の状態を踏まえて利用者の増員を目指します。建物の老朽化が進み故障している所が多く修理が間に合わなくて利用者に迷惑をかけているのが残念でした。		
課題	冬場などに 7 時間～9 時間の利用者が減少する。 老朽化した箇所の修繕が思うように進まない。		
今後の方針	重点目標	更なる安全安心のサービス提供を徹底する。 円滑な運営と事故ゼロに努める。 工夫による収益の増加。	
	課題解決策や新しい取組み	ミーティングの充実と情報の伝達に力を入れ、円滑な運営を心がける。 計画的に施設と設備の修繕を実施する。 社協での標準時間帯（7 時間～9 時間）の利用者を増やす。	

拠点区分及びサービス区分		介護事業所（あゆみ）／生活介護事業所あゆみ事業所	
事業詳細区分		生活介護事業所あゆみ事業所	
財源区分		補助・受託（市・県等）・ <u>単独</u> （会費・共募・寄付金・ <u>その他</u> ）	
事業概要	目的	障害者自立支援法に基づき、障がい者が日々充実して過ごし、生活の幅を広げながら地域生活を送ることができるように必要なサービスを提供する。	
	内容	個別支援計画に基づき、相談助言・日常生活上の支援・食事・排泄等の介護・軽作業等の生産活動・創作的活動などのサービスを提供する。	
実績内容	延べ利用者数	27年度	28年度
		1,584	1,538
事業評価	体力、身体機能的に個人差があるので、それに応じたプログラムを提供している。十分な人員配置とはなっていないが、工夫して事業を実施できた。		
課題	建物や備品が老朽化してきており、修繕や購入が増えてきている。		
今後の方針	重点目標	毎日の体操、散歩、ダンスなどで体力の維持向上を目指す。 利用者に安心してサービス提供できるように備品等の維持管理を徹底する。 新年度から新規利用者が増えるため、利用者の状況を把握する。	
	課題解決策や新しい取組み	笑顔が見られるような様々な創作活動やイベントを実施していく。家族との対話を増やし、あゆみ事業所だけでなくトータル的な支援を行なう。 事業所内の点検を定期的に行う。 重度の利用者については、固定した職員だけが対応するのではなく、全員がまんべんなく支援できる体制を作る。	